

令和7年度
新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革支援事業)
第2年次 事業報告書



巻 頭 言

本校は昭和 55 年 4 月に、日本最古のダム形式ため池である狭山池を望む、文化と歴史の息吹を感じさせる南河内郡狭山町（当時）の地に、大阪府立の第 135 番めの高等学校として誕生しました。創立 5 周年記念誌には、「新設高校を立派な高校に育てあげていくための大切な柱の一つが『地域と結びついた高校』であり、他の府立高校とは異なる特徴的な教育方針の一部である」と確認する開校当時の教職員の様子が記されています。

以来、本校は「地域社会の一員としての学校」であることを大切にし、校訓「自主・創造・連帯」のもと、「翔べよ 遙か狭山生」をキャッチフレーズとして、グローバルセンスとローカルセンスを兼ね備え、高いコミュニケーション能力（リーダーシップ・フォロワーシップ）や心優しき人間性を持って、地域社会においてパートナーシップを構築しけん引する「自主創造型グローバルリーダー」を育成することをめざしています。

令和 4 年度には大阪狭山市と包括連携協定を締結し、市内の中学校の授業見学や文化祭における文化部の合同発表など相互交流を行ってきました。令和 6 年度には文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革事業（普通科改革支援事業）」の指定を受け、コーディネーターを配置し、大阪狭山市や大学、企業等とコンソーシアムを構築し、こうした外部機関と連携した取組を計画的・持続的な取組へと発展させるべく、子ども未来フォーラム（子ども議会）へのオブザーバー参加や小・中学校の児童・生徒へのサポート、市長部局と連携した課題解決的な授業など地域と連携した様々な教育活動を進めてきました。この 2 年間は、まさに教職員全員が設立当時に立ち戻って本校の特長や特色は何かを改めて見つめ、考え、「社会に開かれた教育課程」を実現するカリキュラムづくりに専心する日々であったと言えます。

いよいよ令和 8 年度入学生から、大阪府初の普通科新学科である「文理探究科（社会共創）」が本校でスタートします。新学科では狭山高生が探究する力やコミュニケーション能力、社会に貢献する意欲や実践力などをより伸ばさせていけるよう、課題解決型の探究学習や社会とつながる学び、「本物と出会う」体験を一層重視してまいります。各教科の授業づくりと教育課程の中核である総合的な探究の時間や学校設定教科「深学探究」の探究活動における学びのストーリーの確立、そして生徒が活躍する舞台を学校内外にどのように設定していくかという点ではこれからも試行錯誤が続きます。

今後も自分たちで創出したカリキュラムを実際に運営しながら、改善の営みを続け、新学科の魅力・特色づくりに教職員全員で取り組んでまいります。どうか多くの方々にご協力をいただき、変わらぬご支援をいただくことができればありがたく存じます。

最後になりましたが、本校の探究活動の発展、本事業の推進及び新学科のスタートにあたり、ご指導・ご支援を賜りました文部科学省、大阪府教育庁、大阪狭山市、関係大学、関係機関、地域の皆様に心より感謝申し上げ、巻頭の挨拶とさせていただきます。

令和 8 年 3 月 吉日

大阪府立狭山高等学校
校長 岡本 真澄

目 次

I	事業の概要（文部科学省提出 令和7年度 実施計画書）	・・・ 1
II	活動報告	・・・ 19
III	地域コーディネーター活動報告	・・・ 45
IV	探究学習成果発表会	・・・ 47
V	コンソーシアム会議 議事録	・・・ 52
VI	運営指導委員会 議事録	・・・ 53
VII	高校魅力化評価システム 結果	・・・ 55
VIII	事業完了報告書	・・・ 57

I 事業の概要（文部科学省提出 令和7年度 実施計画書）

実施計画書（普通科改革支援事業）

1 事業の概要

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する学校名・設置（予定）年度

公立・私立・ 国立・株立の 別	学校名 (ふりがな)	学科の種類	設置（予定） 年度	決定
公立	大阪府立狭山高等学校 (おおさかふりつさやま こうとうがっこう)	地域社会学科	令和8年度	○

※学科の種類は学際領域学科又は地域社会学科の別を記載すること。

※設置（予定）年度は令和6年度、令和7年度又は令和8年度を記載すること。

※教育委員会等における決定を経ている等、組織として設置が決定している場合には、「決定」欄に○を付すこと。

(2) 学校の詳細

課程別	新学科の 収容定員	学年制・ 単位制の別	学科の名称（決定している場合）
全日制	240 (1学年)	学年制	

※課程別は、全日制・定時制・通信制の別を記載すること。

(既存の学科を転換する場合は、以下も記載)

現在の生徒数	現在の学科の種類	現在の学科の名称
704人	普通科	普通科

(3) 当該学科における特色・魅力ある先進的な教育の取組について

<概要>

「地域社会に貢献する国際的知見を持ったリーダーを育成する」ことを事業の目標とする。「守破離」をモデルとした、「自分ごと」の学びを深化・完成させる学習プログラム『深学探究』を実践する。

常に課題意識をもち、「自分ごと」として思考するための学びを実践する。自己表現を高める基礎講座、地域行政と連携した課題解決探究（判別学習）、高等教育機関による個別課題解決型探究（個人別学習）といった段階的学習によって国際的知見をもったリーダーを育成する。同時に地域との交流を重ね地域に根差した学校活動を更に活性化させる。

<取組>

I、地域行政機関と連携した課題解決型探究の実施 ⇒ 総合的な探究の時間

表現力・論理的思考力を深める探究の基礎的な探究活動、地域の行政機関と連携して課題解決をめざす発展的な探究活動を通して、地域社会に貢献する資質・能力を身に付ける。

①表現力・論理的思考力の向上をねらいとした「ソーシャルスキル育成講座」や「クリティカルシンキング育成講座」、「校内ビブリオバトル」等の実施

②大学と連携した探究サイクルに関する「深学探究基礎講座」の実施

③地域行政機関と連携した課題解決型探究活動「地域社会ゼミ（仮称）」の実施

④③の活動の深化を図る地元商工会等と連携した「フィールドワーク」の実施

II、教科横断的な探究活動の実施 ⇒ 学校設定教科・科目

2年間における「深学探究」の完成を目的に、自己の探究をさらに深めるために、教科横断的な探究活動を行うとともに、地域と一緒に探究活動の成果を発信する活動をとおして、地域社会に貢献する資質・能力をさらに身に付ける。

①地元行政機関・企業等の地域全体と協働して「地域社会研究発表会（仮称）」の開催。

②2年次までの各教科・科目での学習成果と、「地域社会ゼミ（仮称）」における探究活動の成果をより関連づける「深学探究演習（仮称）」の実施。

③研究成果の論文執筆活動を実施。

III、コンソーシアム構築

地域の社会課題について解決をめざす学習を推進するために、地元の大阪狭山市・大阪狭山市商工会・大阪狭山市教育委員会と本校が一体となって、市の課題の解決をめざし、地域社会及び教育のネットワークの強化につなげる。そのために地域の資源を活用した探究活動はもとより、近隣大学・企業・国際機関とコンソーシアムを構築し、複数かつ教科横断的な地域社会の諸課題の解決をめざす探究活動の充実を図る。

2 事業の目的等

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科を設置する必要性

本校の所在地である大阪府大阪狭山市は大阪府の南河内地域といわれる南東部に位置し、人口 58000 人余りの都市である。交通の便も良く、南海電鉄・南海高野線が南北に延び、南は和歌山高野山、北は大阪市内までのアクセスが可能となっている。各学年 6 クラス、計 713 名が在籍している。南河内地域の人口の減少に加え、大阪府の学区撤廃による生徒が自由に学校を選択できる環境によって、大阪府北部の高等学校への進学者が増加し、クラス減少も相まって本校が独自の魅力を新たに創出する必要性が高まっている。

そこで、地域社会と国際的に活躍する人材を育成することを本校の課題として掲げ、地域を担う「ローカル」と国際的見地を養う「グローバル」を柱とする、「グローカルハイスクール」として活動を実践し、「グローカルリーダー」の育成をめざしている。

本校が定義するグローカルリーダーは「生まれ育った地域を想い、実践家として活躍できる人材」となるために、「世界を見据えた視点で直面する事象や課題を俯瞰・思考し、解決に向けて地道に探究する人材」である。地域・世界両方から求められ、愛される人材を育成することが本校の使命である。

現在の大阪府においては、人口が減少する地域の増加、地域産業の停滞等、現実的に抱える課題が山積している。その課題を逆手に取り、「ローカルの視点から見た課題」と「グローバルの視点から見た課題」とを結びつけて思考・追究し、世界規模で活躍するリーダーを育成すべきである。その役割を担うことができるのが本校であると考えている。約 20 年前に豪州・韓国との交流が始まり、相互訪問やオンライン交流を通じた異文化体験を重ねることで世界の中の狭山高校を意識する契機となり、現在生徒の視野を広げる一助となっている。現在の本校の探究活動を考えるにあたり無くてはならないものとなっている。

地域行政機関との連携は、令和 4 年度、大阪狭山市と包括連携協定を締結し、市内の中学校と授業見学や文化祭における文化部の合同発表など相互交流を行ってきた。また、大阪狭山市では「地域と共にある学校づくり」として、市内の全小中学校が教育課程特例校として文部科学省の認可を受け、生活科や総合学習の時間を活用し「地域学習」として地域の人々との交流や大阪狭山市の歴史文化の系統的な学びを通して、グローカル人材の育成を進めている。こうした特色ある取組と連携し、義務教育段階から高等学校段階まで一貫した地域学習を進めていくことで、地域に根差した学校づくりを進めていくことができる。加えて、行政機関とは公民館等市民交流をおこなう行事に部活動・生徒会の参加、また地域諸団体とともに狭山池まつりの運営に携わるなど、1 年通して地域との連携を継続している。

その他の教育機関の連携としては、近隣の桃山学院大学と連携し課題解決型探究授業を実践している。具体的な実践例として、ビジネスデザイン学部とミズノ株式会社との連携による商品開発プレゼンテーションを実施、本校生が新たなスポーツ商品についての提案を行い、情報収集・思考・提案といった自己表現能力の育成と情報発信の重要性についてより実践的な学びを行っている。また、大阪公立大学をはじめ、複数の大学の教員を招聘し、「大学模擬ゼミ」を実施し、将来の進路について考えるとともに、学ぶことの大切さを深く考えさせる授業を展開している。

これらの地域社会と連携した取組と学術的な取組を一層深く学ぶ環境を作り、地域や大学、企業等とコンソーシアムを構築し、生徒が能動的かつ、協働的な学びを実践する環境を創出することにより、大都市圏を支える地域社会の重要性を再認識させ、世界に羽ばたくリーダー養成が可能となる。以上の点からも本校が地域社会学科の学校としての役割を担い、活動することが重要であると考えている。

(2) 学際領域学科又は地域社会学科における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

I、育成をめざす資質・能力等

- ・主体性（課題設定力）・協働性（共創力）・探究性（批判的思考力）・社会性（グローバル意識）を兼ね備えた地域社会に貢献する国際的知見を持ったリーダーの育成
- ・現在の本校の探究活動では、教員や行政等から与えられた課題について、情報収集を行い、まとめ発表することが中心となっている。情報収集やまとめ活動を通じて情報活用能力の向上等は期待できるものの、生徒自らが課題を設定して、主体性や探究性をもって、課題を解決していく力の育成ができていないことが課題である。
- ・現在本校で実施している国際交流については、個々の活動に目標を設定し実施しているが、参加人数も限定的であり、単発的な取組となりがちであった。そのため、探究活動において、地域社会の課題解決に取り組んでいくにあたり、国際化が進む社会的背景をふまえ、多様な文化や考え方に触れ、グローバルな視点を身に付けることで、「ローカル」な課題に対する視野や知見を深めるなど、社会性（グローバル意識）を育成することが課題である。
- ・本学科では、教員や行政等から課題を与えて探究するのではなく、生徒自らが地域社会の課題を発見し、グローバルな視点をふまえ、主体性・協働性・探究性を養いながら課題を解決できると共に、探究活動と国際交流を結び付けた取組を行うようなカリキュラムを総合的な探究の時間及び学校設定教科・科目において実施する。

II、総合的な探究の時間

大学等と連携し問いの立て方やデータ分析、発表などの探究スキルを育成するとともに、地域社会の様々なテーマにおける課題解決に向けた探究活動を行う。地域の行政機関・企業等を巻き込んだ探究活動成果発表会等を実施し、生徒の主体性や協働性を育成するとともに、地域社会への貢献意識を高める柱となる活動を行う。「生徒のコミュニケーションスキル」の向上、「課題解決型思考」を育成するためのディベートや小論文執筆等を「深学探究」で実践、単元毎に振り返りを行い能力の定着を図る。

III、学校設定教科・科目

学術的専門分野から幅広い見識を養うための「深学探究演習（仮称）」や、地域の方々と共に創り上げる「地域社会研究発表会（仮称）」を通して、自己のキャリア形成はもとより、卒業後のライフプランニングを見据え、幅広い視野で学び続ける主体性、地域貢献の意識の向上を目的とする。「深学探究演習（仮称）」では地域的課題、及び国際的視点からみた地域の課題を解決するための調査研究を生徒一人一人が行い、成果について小論文またはプレゼンによる発表をおこなう。

IV、国際交流

地域社会学科の主たる特色である地域（ローカル）の課題を知り、課題の解決をめざす取組を行う上で、地元地域のみを研究するだけでなく、他国の文化や考え方等のグローバルな視点を学習することで、多様な視点からローカルな課題を捉えることができ、急速に進展するグローバル社会の中で生きる生徒たちが、高校卒業後も多様な視点で課題を捉えることができ、真の社会性が身につくと考える、そのため、本事業においても、国際交流と探究活動を関連づけ、グローバルリーダーの育成につなげることが必要である。姉妹校提携を結んでいる高校との交流、JICA 関西と連携した課題解決研究から国際的知見及び地域との関連性について学びを深める。

3 実施体制

(1) 管理機関における実施体制や事業の管理方法

本事業の管理・指導・支援については、大阪府教育庁教育振興室高等学校課が行うこととする。

本事業の実施校が「めざす生徒像」を具現化するために、高等教育機関、地域の行政機関、教育委員会、商工会、一般社団法人等からなるコンソーシアムを構築し、協働して多様な分野の学びに接したり、複合的な学問分野や新たな学問分野に触れ、社会における課題の解決に向けた探究的な活動ができるよう支援するとともに、3年間を通じた体系的な取組を実施できるよう指導助言を行う。

また、事業の実施に必要な教員の配置等の人的支援を行い、定期的に学校を訪問し、事業の進捗を確認するとともに、必要に応じて指導助言を行う。

I、主に、以下の点を確認し、事業の管理を行う。

- ・事業の趣旨や目的に沿った取組がなされているか。
- ・当初の計画から変更はないか。不可避の変更に対して、適切に対応しているか。
- ・大阪府の方針（「第2次大阪府教育振興基本計画前期事業計画」、「府立高等学校再編整備計画」）に則った取組内容となっているか。

II、運営指導委員会の設置

- ・大学の教授や地域の行政機関、国際協力機構等からなる運営指導委員会を設置する。大阪府教育庁は運営指導委員事務局員として支援を行う。
- ・年3回程度、探究活動の実施日や生徒研究成果発表会とあわせて開催し、事業における取組の効果や生徒の変容を直接見取るとともに、事業の進捗状況の確認を行うことができるようにする。

III、担当者会議の運営

- ・管理機関である大阪府教育庁と、普通科改革推進事業の令和6年度採択校（府立狭山高校）と狭山高校と同じく令和8年度より新たな普通科に学科改編を予定している高校とあわせて2校の担当者及びコーディネーターを含めて、本事業に係る取組の進捗状況の報告や、情報の共有等を行う担当者会議を設置・運営する。また、2校以外の他の普通科高校の参加校を募り、2校がモデル校としての役割を担う。

IV、その他

- ・運営指導委員会会議や生徒の発表会等以外にも、定期的に学校を訪問し、指導助言を行うとともに、随時、事業の検証・改善への提案を行う。

(2) 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

I、事業評価の体制について

- ①コンソーシアム会議での検証・評価（9月・1月）
 - ・探究活動への研究支援及び生徒のキャリア形成への支援の充実に向けた取組の検証及び評価を行う。
 - ・コンソーシアム機関と連携した取組の活動数等の推移から、本事業におけるコンソーシアム構築について、多角的かつ学術的な視点から検証及び評価を行う。

- ②運営指導委員会での検証・評価（11月・3月）
 - ・コンソーシアム会議等から報告された意見や検証結果を踏まえ、事業全体の成果検証及び評価を行う。
 - ・運営指導委員会での成果検証及び評価の結果についても、コンソーシアム会議等に対してフィードバックを行う。
 - ・本事業で開発する事業評価のためのルーブリック評価の結果まとめ等から、事業全体の取組等、本事業のアウトカムとのつながりについて、客観的かつ学術的な検証及び評価を行う。

- ③担当者会議での検証・評価（年2回）
 - ・担当者会議における事業の進捗状況の報告、生徒の意識変容のデータ等を踏まえ、事業の成果検証及び評価を行う。
 - ・生徒の意識変容のデータ等と本事業で開発するルーブリック評価との関連性から、育成をめざす資質・能力の育成について継続的に検証及び評価を行う。

II、事業評価の考え方

- ①めざす生徒像や育成すべき資質・能力の明確化
 - ・学校の教育目標やスクールミッション・ポリシーから本事業で育む資質・能力の適切な設定がされているか。
- ②3年間を系統立てたカリキュラムの計画及び実施
 - ・総合的な探究の時間及び学校設定科目を中心としたカリキュラムが展開できているか。
 - ・本事業の取組の成果について、組織的に評価・分析・改善できているか。
- ③コンソーシアムの構築及び外部機関の有効活用
 - ・本事業における取組の充実に資するコンソーシアムを構築できているか。
 - ・本事業の趣旨を踏まえ、事業実施計画に基づき外部機関の活用できているか。
- ④コーディネーターの有効活用
 - ・コーディネーターの校内での役割が明確化されているか。
 - ・コーディネーターを軸とする学校内外の協働体制が構築できているか。

(3) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校における事業の管理方法

I、校内組織の改編

現在、総合的な探究の時間の企画は、探究委員会を中心に行っているが、各学年や分掌と連携した取組を系統的に実施できていない。そこで、各学年や分掌と連携し、本校の教育目標や本事業の目的・目標との関連を図りながら、カリキュラムの検討、コンソーシアムをはじめとした外部機関と連携した取組等を企画・運営する新たな組織を設立する。

- ①普通科改革推進プロジェクトチーム（※）を経営会議の直轄組織として設置。
- ②プロジェクト会議を週1回程度実施し、本事業を企画・運営するとともに管理を行う。
（※）本事業の取組の企画・実践・検証を行う。
管理職・教員・コーディネーターにより組織。

II、コンソーシアム運営委員会の開催

コンソーシアム運営委員会を年3回開催する。本委員会では、コンソーシアムを構成する機関が一同に会し、本事業で行う各取組について協議等を行い、もって本事業の取組の改善及び連携強化につなげる。

- ①カリキュラム及び取組内容について、各専門分野からの助言
- ②コンソーシアムを構成する機関からの探究活動で活用できるリソース（施設・人材など）の情報交換
- ③探究活動に関するデータの提供、インターンシップ・フィールドワーク等の体験学習、海外交流校との交流等の機会の創出
- ④ICTを活用した新たな授業方法の検討、展開
- ⑤コンソーシアムを構成する複数の機関と学校とが連携する取組の検討

III、学校運営協議会

学校運営協議会を年3回開催する。本委員会は市内中学校校長、学識経験者、PTA代表、公共機関代表等で構成。学校運営に関して校長に助言をおこなう機関として事業についても助言をおこなう。

- ①本事業における取組に対する助言
- ②地域連携を含め、学校全体に関わる案件に対しての指導
- ③学校教育自己診断等における事業の分析

(4) 管理機関及び申請校における研究開発の実績（申請校が新設校の場合、管理機関における実績のみを記載）

【管理機関における研究開発実績】

○スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業

〈期間〉平成26年度～平成31年度（指定6校、アソシエイト1校）

- ・北野「アジアと学び合う一夢を実現する国づくりー」
- ・三国丘「持続可能な地域開発に貢献できるリーダー育成プログラム」
- ・豊中「『多様性』と『文化』を掛け橋にして世界を牽引する人材を育成する」
- ・能勢「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」
- ・千里「グローバル・マネジメント力を備えたリーダーの育成計画」
- ・泉北「共存共栄で持続可能なビジネスモデルを創造する次世代リーダーの育成」
- ・四條畷「環境にやさしいまちづくり」に貢献するグローバルリーダーの育成」

○スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）事業

〈期間〉平成30年度～令和2年度（指定1校）

- ・農芸：「学校、地域、社会のリソースを活用したチャレンジ精神豊かな地域創生ジェネラリストの育成～高付加価値化した商品開発と持続可能な開発のための教育実践～」

○ワールド・ワード・ラーニング（WWL）コンソーシアム構築支援事業

〈期間〉令和元年度～令和3年度（指定1校）

- ・北野：「いのち輝く未来を創造するイノベーターなグローバル人材育成」

○スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業

〈期間〉平成14年度～現在（指定11校）

- ・天王寺：「多様で卓越した探究力を備えた科学技術人材の育成～持続可能なシステムの構築と普及～」
- ・住吉：「国際性豊かな科学技術人材の育成とカリキュラム開発及びその実践～変化の激しい時代をリードし世界に貢献する有為な人材の育成プログラム～」
- ・大手前：「科学する力を身につけたリーダー育成プログラム」
- ・高津：「グローバルな舞台で次世代を牽引する科学技術リーダーの育成プログラムの開発」
- ・三国丘：「予測困難な時代に活躍できる理工系人材育成プログラムの開発」
- ・生野：「学際的グローバルリーダーの育成」
- ・豊中：「“みらい地域還元型”科学する人づくりプロジェクトの開発」
- ・千里：「VUCAの時代の課題に向き合い、国を超えて協働できる科学技術人材育成プログラム」
- ・岸和田：「協創型『温故知新』プログラムによる科学技術人材の育成と地域と取り組む探究ネットワークの構築」
- ・四條畷：「社会に貢献できる科学技術系人材を育成する教育システムの深化と、地域への成果の普及」
- ・富田林：「併設型中高一貫校における『グローバル・サイエンスリーダー』の育成プログラムの開発・実践」

(5) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授	池田 文人	学識経験者
近畿大学 教授	柴 浩司	学識経験者 元大阪府教育委員会教育監
大阪大谷大学 教育学部 教職教育センター長	岩井 晃子	学識経験者
大正大学 地域創生学部 教授 東京大学 名誉教授	牧野 篤	学識経験者
大阪狭山市公民館 館長	福田 準一	大阪狭山市立公民館 館長
大阪府国際交流財団 国際協力推進員	トラン ティ 美佳	JICA 関西 国際協力推進員

(6) 運営指導委員会が取り組む内容

年間3回程度の運営指導委員会において、本事業の取組に対する各委員の専門性や多様な見地から、指導助言を行う。本事業における各取組に関する進捗の確認はもとより、本事業を直接視察する機会等を設け、各取組による生徒の変容等について評価を行い、課題に対して必要な助言を行う。

また、探究の高度化をめざし、それぞれの専門性や知見を活かしながら、総合的な探究の時間や学校設定科目等において生徒個々の課題研究テーマに応じて指導を行う。

4 学際領域学科又は地域社会学科における取組

(1) 学際領域学科又は地域社会学科におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力ある先進的な教育の内容（学校設定教科・科目の詳細は別添1「学校設定教科・科目の設定に関する説明資料」に記載。）

I、実践内容について

○1年次「深学探究」（基礎） …「総合的な探究の時間」1単位

生徒が自身の考えを育み、発信するために必要な思考・判断能力を育成する。コミュニケーション能力育成を目的とした「自己表現基礎」、自身の思考を深め表現力を養う「論理的表現基礎」の2つの課題を基に能動的かつ協働的な学びを実践する。

- ①コミュニケーション能力育成のためのパーソナリティ分析等を行う「ソーシャルスキル育成講座」の実施。
- ②論理的思考力及び表現力（プレゼンやスピーチ能力）の向上に向けた「クリティカルシンキング育成講座」及び「校内ビブリオバトル」の実施。
- ③大学等と連携し、自己のキャリア形成のための課題の設定や情報収集及び分析の基礎を学び、生徒が居住する地域社会における課題について、情報収集し分析し、その課題の解決方法を提案する「深学探究基礎講座（仮称）」の実施。

○2年次「深学探究」（発展） …「総合的な探究の時間」2単位

1年次で培った能力を更に深化させることを目的とし、自身が最も関心がある地域社会の課題に対して自分事として解決しようとする意識を持つような探究活動をおこなう。

- ①大阪狭山市と連携し地域における教育・観光・行政・商業・医療等の課題について生徒個人が自由に課題を設定し研究、提言をおこなう「地域社会ゼミ（仮称）」を実施。
- ②韓国及びオーストラリア姉妹校とのオンライン交流及び短期交換留学による文化比較研究を行い、英語によるプレゼン発表を実施し、多様な国際的な課題の見方・考え方を養う。
- ③地元商工会や地域諸団体等と連携し、大阪狭山市における社会課題等について、直接関係者にインタビュー等を行う「フィールドワーク」の実施。

○3年次「深学探究」（完成） …「学校設定教科・科目」3単位

2年間における探究経験を基に、教科横断的探究活動を行うとともに、地域的な課題から国際的見地をもった課題解決を行うことができる資質・能力を育成する。

- ①2年次①の研究成果等についてポスターセッション、プレゼン発表を行う「地域社会研究発表会（仮称）」を開催。各学術分野における大学教員等が指導助言者として参加。また、体験型のプログラムも実施し地域の中学生や地元企業、地元住民等も参加。
- ②2年次までの各教科・科目での学習成果と、「地域社会ゼミ（仮称）」における探究活動の成果をより関連づけるため、「深学探究演習（仮称）」を実施。複数のタームと教科毎に特徴をもたせた探究授業を選択し受講する。自らの進路希望や興味・関心のある学問分野も含めて複数の演習を受講させることで学びの質を向上させ、生徒一人ひとりの論理的思考及び表現能力の完成を図る。
- ③また、生徒自らの研究成果を小論文として執筆、完成させる。論集にして以降の生徒に向けた資料として活用できるようにする。

(2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

現在の「総合的な探究の時間」では、大学や企業、大阪狭山市役所と連携し、課題解決型の探究活動を展開している一方で、探究する課題については、企業や市役所から提供された課題で探究活動を実施しており、生徒にとって課題が「自分ごと」となっていない。

また、課題を設定した上で、どのような見方・考え方で課題解決のための仮説を立てたり、情報を整理・分析したりするといった探究サイクルの過程について、その指導のノウハウや経験が不足している。こうした課題を解決するために、コンソーシアムを構築し、継続的かつより発展的な探究活動ができるよう、関係機関等と連携を行う。

さらに、令和4年度に大阪狭山市との連携協定を締結しており、地元自治体及び中学校、商工会との連携をさらに進めるために、連携協力体制を強化する。

I、探究活動の充実

課題の設定や情報収集及び分析の基礎を学習する機会を創出するため、コンソーシアムに大阪公立大学や近畿大学を加え、これらの大学から講師を招いた「深学探究基礎講座」を実施し、2年次において自ら課題を設定し、課題解決に向けた情報処理のスキルを向上させる。

II、地域との連携の充実

中学校と連携した ICT の効果的な活用実践に加え、市役所や商工会等との連携を強化し、課題の発見や解決に向けた地元企業や施設等へのフィールドワーク等を行うとともに、地域の文化的行事への参加の拡大等を通じて、大阪狭山市と課題を共有するとともに、生徒自らが行う課題解決型の探究活動を市役所等と連携して行うことで、地域との連携を充実させる学校と市が一体となったコンソーシアムを構築する。

(3) コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
大阪公立大学	—	
近畿大学	—	
大阪狭山市	—	
大阪狭山市教育委員会	—	
大阪狭山市商工会	—	
一般社団法人 学びのイノベーション・プラットフォーム	—	
一般社団法人 ナレッジキャピタル	—	
株式会社 三菱総合研究所	—	

(4) 配置するコーディネーターの属性や役割

所属	氏名
元大阪府教員	田中 秀憲

当該者の主な実績

大阪府において、教諭として43年間、本校を含む府立学校に勤務し、令和5年度末に再任用満了により退職した。

大阪狭山市を中心とした地域の公共団体との事業に携わってきた経験から、現在も、市役所や外部機関との連携の窓口となっている。校内のみならず、各諸団体からの信頼も厚い。

狭山池まつり実行委員会理事。

コーディネーターが取り組む内容（勤務形態を含む）

新たに組織改編する、普通科改革推進プロジェクトチームの一員として、以下のとおり、コーディネーター業務に取り組む。

I、勤務形態

非常勤職員として大阪府が雇用。週2回、1日最大6時間勤務。

II、取組内容

①コンソーシアムをはじめとした外部機関との連絡・調整

- ・本事業における各取組を行う際の外部機関との連絡業務
- ・本事業担当教員と一緒に外部機関との取組の実施時期等の打ち合わせ業務
- ・公文書の作成など各取組にかかる事務的な依頼業務

②カリキュラム開発にかかる各取組の調査・企画

- ・コンソーシアムを中心とした外部機関における本事業で活用できる人的・物的リソースの調査
- ・普通科改革推進プロジェクト会議において、カリキュラム開発における外部機関の人的・物的リソースの情報共有
- ・本事業における探究活動等の取組の提案

③探究活動に関する生徒や教員等へのアンケート調査・分析

- ・本事業における各取組に対する生徒・教員アンケートの作成
- ・本事業における生徒・教員アンケートの分析
- ・コンソーシアムを構成する外部機関の取組に対するニーズ調査

(5) 学際領域学科又は地域社会学科の設置及び設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施

新学科設置予定の令和8年度に向けて、以下の広報活動を令和6年度から順次実施する。

I、本校を志望する中学生及び地域の方に向けての説明

中学生やその保護者、中学校関係者、地域の方への告知及び説明については、以下の方法で周知に努める。

- ①学校パンフレットの作成、配布。その際には教育活動や行事等を整理し紹介。
- ②大阪府教育庁主催学校説明会「進学フェア」や府内の中学校が参加する「大阪南エリア公立高等学校等合同説明会」及び近隣市町村中学校主催進路説明会等において、プレゼンによる説明を実施し、地域のみならず、大阪府全体に発信し周知していく。
- ③本校主催のオープンスクールにおいて、本校の新たなカリキュラム及び今後の流れについて説明する。
- ④特設 WEB ページの設置・公式 SNS 等を開設し、地域に向けて取組を紹介する。

〈令和7年度の主な広報スケジュール〉

- ・令和7年6月 近隣中学校に学校パンフレットの配布。
特設 HP の開設。
- ・令和7年7月 大阪府教育庁主催の「大阪府公立高校進学フェア」にて説明。
- ・令和7年9月～校内での学校説明会を開催。（計4回）

II、本校生徒・保護者への説明

本校生徒及びその保護者への告知及び説明については以下の方法で周知に努める。

①生徒

- ・令和6年4月 始業式における概要説明。（対象：全校生徒）
- ・令和6年4月 総合的な探究の時間において、地域行政機関及び大学等との連携の概要について説明する。
- ・令和6年8月 第2学期始業式において大阪府教育委員会会議の決定を報告する。
- ・以降随時、始業式や終業式、総合的な探究の時間において、情報提供を行う。

②学校運営協議会

- ・令和6年6月 令和6年度の学校運営協議会にて情報提供し、意見を聴取する。
開催予定（第1回：6月、第2回：11月、第3回：令和7年2月）

③保護者・PTA・後援会

- ・令和6年5月 PTA 実行委員会にて事業の説明を行う。
- ・令和6年5月 PTA 総会において事業の説明を行う。

④同窓会

- ・令和6年9月 同窓会長をはじめ委員に対し、事業の説明を行う。

5 実施計画

(1) 3ヶ年の実施計画の概要

I、令和6年度（1年目）

令和8年度の新学科開設に向けて、校内組織体制の改編をはじめ、コンソーシアムを構成する外部機関と連携協力体制の構築を中心に取り組む。

①校内組織体制の改編

⇒普通科改革推進プロジェクトチームを設置。

②コンソーシアムを構成する外部機関との連携協力体制の構築

⇒構想段階でのコンソーシアム構成機関と具体的な取組の連携を検討。

③カリキュラム開発（先行実施）

⇒コンソーシアムを構築する外部機関と連携し、大阪狭山市の課題解決に向けた探究活動（成果発表会の実施含む）など、新学科の特色ある取組の先行実施。

④他の本事業指定校への視察による取組及びコンソーシアム構築等の研究

II、令和7年度（2年目）

令和8年度の新学科開設に向けて、育成したい資質・能力（主体性（課題設定力）・協働性（共創力）・探究性（批判的思考力）・社会性（グローバル意識））の向上をめざしたカリキュラム開発をはじめ、各取組や新学科の趣旨等を学校外に対して情報発信する。

①カリキュラム開発

⇒1年目の取組の成果と課題や、生徒のアンケート結果をふまえ、育成したい資質・能力を段階的にまとめたルーブリックを開発する。

②コンソーシアムを構成する外部機関との連携協力の強化

⇒1年目に計画した具体的な取組の実施（施設設備の活用・講師派遣・研究室訪問等）

③広報活動

⇒学校HPの活用や地元自治体と連携し、地元中学生や地域の方々に対して、本事業の取組等について広報する。

III、令和8年度（3年目）*新学科

研究開発の最終年度として、1年目・2年目の取組をプログラム化するとともに、本事業の成果を府内及び他府県に普及する。

①カリキュラム開発

⇒2年目で開発したルーブリックを活用し、育成したい資質・能力が生徒に身についたかどうかを検証する。

②広報活動

③本事業の普及

⇒「普通科探究発表会」を開催し、府立の普通科高校における生徒の探究成果の発表会を行い、取組を普及するとともに、府内の普通科高校の探究活動を充実させる。

④「深学探究論集（仮称）」を編纂、生徒・地域教育機関に配付。

(2) 今年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 (3年間の単元計画の完成 ～8月) ・普通科改革広報委員会を設置 ・3年選択科目による探究カリキュラムの試行(狭山池まつりにおける探究授業等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム及び運営指導委員の更新
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 ・現行カリキュラムでの新探究プログラムの実践準備(大阪狭山市との連携授業) ・探究発表活動「ビブリオバトル」の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪狭山市との連携による探究活動に係る協議 ・教員向け探究学習研修会 ・第1回コンソーシアム運営委員会 (本年度の事業計画説明、事業展開の確認・助言)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 ・授業公開期間(探究活動) ・地域課題探究活動(修学旅行に係る探究調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪狭山市との連携による課題解決型探究授業の実践 ・第1回学校運営協議会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 ・運営指導委員個別指導① ・探究活動についての生徒向けアンケートの実施 ・海外交流(オーストラリア)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣中学校と地域住民への説明会実施 ・教員向け探究学習研修会(講師①) ・第1回運営指導委員会 (本年度の事業展開の進捗確認・助言)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 (前期のまとめ、後期の事業展開の確認、生徒アンケートの分析) ・外部講師による特別講義(生徒対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター研修①(東京)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 (資質・能力を段階的にまとめたルーブリック開発)・指定校発表会(東京) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元「フィールドワーク」の実施に向けた地域関係者との意見交換 ・教員向け探究学習研修会 ・第2回コンソーシアム運営委員会 (他府県視察の報告、連携協力体制の確認、事業展開の確認、助言)

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 ・他府県の新学科先行実施校の視察① ・地元「フィールドワーク」の実施 ・現行カリキュラムでの新探究プログラムの実践(修学旅行に係る他府県の地域をテーマとした課題探究発表) ・オンライン海外交流の実施(韓国) 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 (運営指導委員会の意見等含めた新しい探究単元計画の確認) ・探究活動成果発表会の実施 ・運営指導委員個別指導② ・国際的見地を育む探究活動の実践(JICA) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員向け探究学習研修会 ・コーディネーター研修②(東京) ・第2回運営指導委員会 (事業の中間報告、発表会での指導・助言、後期の事業展開の確認・助言) ・第2回学校運営協議会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 (後期の事業展開の確認) ・探究活動についての生徒向けアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員向け探究学習研修会(講師②)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 (新教育課程入学者に向けた準備) ・大学模擬ゼミ探究活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国フォーラム・コーディネーター研修(東京) ・第3回コンソーシアム運営委員会 (事業報告及び次年度事業計画の確認、助言)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 (令和7年度事業の総括) ・運営指導委員個別指導③ ・他府県の新学科先行実施校の視察② 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回学校運営協議会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科改革推進 PT 会議 (新学科における探究授業についての教員への研修・説明) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回運営指導委員会 (事業報告、発表会の指導・助言、次年度事業計画の確認・助言)

(3) 事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組み（事業のアウトプットやアウトカムの考え方、目標指標の設定は別添2「目標設定シート」に記載。）

事業の進捗状況の確認及び改善の仕組みについて、校内においては、普通科改革推進プロジェクトチームを中心に生徒の意識変容に関するアンケートを実施し、事業の進捗状況を確認する。また、外部の評価及び改善の提言については、運営指導委員会やコンソーシアム運営委員会の有識者から指導助言をもらうこと等により、事業の進捗確認を行う。

I、普通科改革推進プロジェクトチーム

- ・定期的に開催するプロジェクト会議において、生徒の意識変容を見取るアンケート調査項目を検討・作成（1年目）
- ・アンケート調査を2学期当初に実施し、その数値を分析するとともに、年度末に同じアンケートを行い、生徒の意識変容を確認する。
- ・確認した生徒の意識変容の結果について、プロジェクトチーム以外のすべての教員に周知し、本事業の成果と課題を共有すると共に、生徒の意識変容の更なる向上のための具体的取組について教員研修を実施する。
- ・2年目以降は、前年度のアンケート調査項目を精査し、各取組の成果と課題を踏まえ、目標設定シートに記載した項目以外の生徒意識の変容等についても把握できるものとし、アンケートを実施する。
- ・各取組の進捗状況等については、運営指導委員会やコンソーシアム運営委員会において報告する。

II、教科探究委員会

- ・総合的な探究の時間の取組を企画する教科探究委員会を、週に1回程度開催する。
- ・カリキュラム構築指導アドバイザーを招き、地域と連携した探究活動やフィールドワーク等の探究活動における効果的な実践について、企画する。
- ・実践の振り返りやルーブリック等による評価について、カリキュラム構築指導アドバイザーの指導助言を踏まえ、検討・開発する。
- ・学校設定科目「深学探究（完成）」（仮称）の年間の指導と評価の計画を検討・策定する。

III、運営指導委員会及びコンソーシアム運営委員会

- ・定期的に開催するそれぞれの運営委員会において、上記プロジェクトチームで作成したアンケート項目が適切なものとなっているかについて指導助言を行う。
- ・アンケート結果の分析を確認し、各取組の進捗状況を把握するとともに、取組の改善に向けた指導助言を行う。
- ・運営委員会とは別に、学校に訪問して直接取組を視察する機会や、オンラインを活用した取組の進捗確認を行う。

6 成果の普及のための仕組み

本事業の成果については、次の通り、他の府立高校をはじめとした他府県の高校、地域の中学校及び地域の方々に対しても積極的に情報発信を行うことにより、成果を普及する。

- ①本事業及び新学科設立に係る特設サイトを開設し、他の府立高校に対して普通科の特色・魅力ある取組について情報発信する。
- ②探究活動の公開に特化した「探究 SNS」を開設し、他の府立高校はもとより、地域の中学生・行政機関等も探究活動の情報を得ることができるようになる。
- ③大阪狭山市文化会館「SAYAKA（さやか）ホール」で実施予定の校内発表会について、府内はもとより、地域や他府県にも公開、周知する。
- ④指定3年目に「普通科探究発表会」を教育庁及び本事業申請校と共催し、府立の普通科高校における生徒の探究成果の発表会を行い、取組を普及とともに、府内の普通科高校の探究活動を充実させる。
- ⑤教育庁主催の府内公私全ての担当教員が参加する教育課程協議会「総合的な探究の時間」部会における発表を行い、取組を普及する。
- ⑥本事業の取組及び各取組における評価、成果をまとめた研究報告書を作成し、府立高校に配付し取組を普及する。

7 国の指定終了後の取組継続のための仕組み

I、本事業の継続的連携をおこなう組織体制の構築

地域社会学科の特色ある学びを継続するためには、コンソーシアムを構成する関係機関等との連携を継続していく必要がある。また、事業において開発したカリキュラムや、活動の記録及び成果を基にした教材プログラムを作成し、校内での取組実施を持続可能な形にする。

- ①国の指定期間内のコンソーシアムを中心とした連携機関との連携協定の締結
- ②探究学習活動の教材プログラムの作成
- ③国または府の教員加配の有効活用
- ④大阪教育ゆめ基金を活用した探究活動等に対する支援体制の構築

II、指定終了後の取組継続について

- ①大阪府の「府立高等学校再編整備計画」に基づき、令和8年度より新学科を設置予定。
- ②再編整備に係る大阪府の予算を活用し、コーディネーターの人件費や探究活動に係る費用等を確保し、指定終了後も、取組を継続。

II 活動報告

【1】先行実施授業「地域課題探究」(3年)

目的：大阪狭山市の現状とミッションを聞いて自分事として地域の活性化を考える。

愛着を持って利用してもらいまちづくりについて他者との意見交換を経て、協同的に考える力を身に付ける。

内容：各クラスで8つのチームを作り、将来大阪狭山市に作られる複合施設に愛着を持たせられるようなアイデアを考える。6月中旬には実際に市役所に「提案書」を作成し、提出。それに向けて、現状考えられる工夫や課題などについてスライドを利用して中間報告をする。

準備：プロジェクター×4 ・ パソコン

・生徒の動きと流れ

14:05~14:15	各報告会教室へ移動
14:15~14:20	担当教員から本日の中間報告会についての説明
14:20~14:24	報告①(3分) 準備(1分)
14:24~14:28	報告②(3分) 準備(1分)
14:28~14:32	報告③(3分) 準備(1分)
14:32~14:36	報告④(3分) 準備(1分)
14:36~14:40	報告⑤(3分) 準備(1分)
14:40~14:44	報告⑥(3分) 準備(1分)
14:44~14:55	体育館へ移動 *学年集会の形になる
14:55~	大阪狭山市長講評 司会：担当教員

・報告会場所一覧(8か所で行う。1か所6チーム) *担当教員の敬称略

体育館舞台プール側	チーム番号	1	担当教員
体育館舞台校舎側	チーム番号	2	担当教員
体育館入り口プール側	チーム番号	3	担当教員
体育館入り口校舎側	チーム番号	4	担当教員
3年4組HR教室	チーム番号	5	担当教員
3年5組HR教室	チーム番号	6	担当教員
3年6組HR教室	チーム番号	7	担当教員
2階西教室	チーム番号	8	担当教員

・報告の仕方

各チーム6枚のスライドで中間報告書を作成（1枚は表紙）

作成したスライドを活用し、現状のアイデアを説明する

・活動スケジュール

4月16日（月）大阪狭山市役所役員来校 大阪狭山市の現状とミッションの提示

4月23日（月）各クラス提案するアイデアを考案

【複合される施設】×【新しくくわえる機能】＝【生み出される効果】

5月12日（月）学年アイデア相談会

5月26日（月）中間報告用スライドの作成

5月28日（水）中間報告会

6月16日（月）提案書の書き方講座

6月23日（月）提案書を書く（個人課題）

45期生 「大阪狭山市の課題」複合施設への提案一覧			
1組			
1	共有スペース	月1イベント	色んな世代の交流ができ、よくなる
2	図書館	カフェ	利用者の増加・借リバク防止
3	地域子育て支援拠点	高校生以上の職場体験	両親のサポート幼児への関心アップ教育知識の向上
4	市民利用諸室	試食コーナー	企業は意見が知れて市民は未販売のものが食べられる
5	障がい者支援	ゲーム&ビリヤード	交流をいっぱいして関わりを深める
6	地域子育て支援拠点	保育士による夜間の長期預かり	共働き片親の人の働きやすさ子育てのしやすさ
7	地域子育て支援拠点	保護者休憩スペース	両親の負担をなくす
8	図書館	サウナ・岩盤浴スペースの設置	本を読む機会を与え高齢者の認知症予防
2組			
1	図書館	自習室	勉強できるスペースが増える
2	図書館	カフェ	より集中できるようになる
3	共有スペース	食べ物、スポーツできる場所	知らない人との繋がりが出来る
4	図書館	おしゃべり可能スペース・カフェ・感音言ひ合いスペース	繋がりが増える・新しい価値観が生まれる・更に落ち着ける
5	共有スペース	自由に落書き・メッセージ・読んだ本の感想が書けるスペース	共同施設を構成する一員である感覚を育む
6	共有スペース	食堂・映画・自由スペース	共同スペースの人たちと楽しく遊ぶ
7	図書館	ジム	脳の活動をフル回転する
8	共有スペース	カラオケ・小池哲平（小池徹平?）	人が集まる楽しくなる
3組			
1	図書館	シャトルバス	誰でも本を借りたり、借りた本を返せる
2	図書館	キッチンカー	狭山市内の飲食について知れる
3	共有スペース（ス?）	食堂	狭山市給食センターと連携してご飯を提供する
4	図書館	子どもだけが入れれる日を作る	子どもの読書離れを防ぐ・周りの目を気にせず気軽に図書館を利用できる
5	図書館	1か月に何回か映画館を開放する	リラクセスできる空間を生み出す Cillいびく良い雰囲気を作り出す
6	図書館	こたつや壺	リラクセス・癒いの場
7	保健センター	保護者だけが集まれるスペース	一人じゃないと実感できる
8	図書館	購買	読書推進・滞在時間の増加
4組			
1	図書館・共有スペース	ドリンクバーの設置・冬→こたつ 夏⇒かき米	人が集まると仲良くなる
2	地域子育て支援拠点	学室・子供食堂	親が仕事で帰りが遅いや食べるものがあまり与えられていない子どもを含め子供が通いやすい食堂や広場をつくる
3	共有スペース	プロジェクター広場・ドリンクバー・スタンプカード	曜日ごとに映像の系統を変える⇒両世代が集まって交流が増える
4	地域子育て支援拠点	子どもにも菓子配布・子ども預かりサービスのなもの	子育て世代が移住しやすい
5	図書館	床を芝生にする	リラクセスして本が読める
6	市民利用諸室	料理教室・体操・バレエ・ヨガ	子供から大人まで楽しめる
7	共有スペース	フリーマーケット（週1）	地域だけでなくいろいろな場所のいろいろな年齢の人たちが関わることが出来る
8	図書館	絵本を実写の劇でやる・ドリンクバー・パソコン設置でネットで読めるようにする	いろいろな年齢層の人が集まりつながりをもつこともできる
5組			
1	共有スペース	カフェを作る	市が運営することで安く提供でき長居できる
2	共有スペース	スポーツ系のシュミレーター	若者男女問わずみんなが楽しくスポーツできるため健康を促進する
3	図書館	駄菓子屋を作る	長時間滞在できる
4	共有スペース	映画を流して交流の場にする	年齢を問わず聞かれる
5	地域子育て支援拠点	親同士で意見交換ができる	子育てによるストレスの軽減期待を減らす
6	地域子育て支援拠点	高齢者による子育て支援お手伝い	親の不安負担軽減高齢者のやりがいづくりと認知症予防
7	共有スペース	自習室でスタンプカードを作る	くるきかけができる
8	図書館	本屋を入れる・読み聞かせスタンプラリー	子どもの本に対する興味が増す 利用が増える
6組			
1	地域子育て支援拠点	映画	子育てする人の交流を広げる
2	保健センター	子ども食堂	育児がしやすくなる
3	図書館	スタンプラリー	本をより読みやすくなる
4	図書館	大学や高校とかの過去問を置く	勉強する人が増える
5	図書館	1人時間支援	文字が読めない人とかでも本が読めるように・ヘッドホンで読み聞かせの機能をつける
6	図書館	癒しの空間	現代人に癒しの場を提供できる
7	共有スペース	保護動物	保護動物も地域の人もみんなHAPPY
8	地域子育て支援拠点	視用カフェ（24時間）・おもちゃや壺の譲渡・母親の夜眠スペース	親が楽てHAPPY

本探究では、大阪狭山市立公民館の建て替え及び拡張工事に伴う新複合施設の考案を行った。

今回の探究課題は、市の事業としてすでにスケジュールが決定しており、その期日に合わせて授業計画や授業内容、手法などを合わせていかなければならなかったため、生徒の学びを中心に据えて進めることが難しかったことに加え、生徒の資料作成の時間がかなりタイトになってしまったことなど、課題があった。今後、地域探究を軌道に乗せるうえで、市役所との連携は不可欠であるため、今回生じた問題を踏まえて企画運営を提案していきたい。

📍 中間報告会の様子



【2】「マルチプレイ探究」 (3年独自の取組)

目的：生徒自身が「自分たちでない誰か」を楽しませるために主体性をもって考える力を身につける。

内容：「他クラスのクラスレクを企画してみよう！」

- ① 6/23：クラスレク企画の説明（使用場所決定・チーム分け）
- ② 6/30：レクを考えよう（グループでレクを考案。改良につながるようなアンケートの作成。）
- ③ 7/14：レクをやってみよう①（まずは自クラス内でレクの実践。改良のためアンケート回答。）

3年生が探究学習の時間を活用し企画を立案。クラスレクという生徒が取組やすい内容であり、身近な人を楽しませるというところが興味を持ちやすかったか、生徒が自分ごとと捉えて主体的に取り組んでいる姿が見られた。生徒の能動性を推し量る取組として評価できる。



【3】先行実施授業「ビブリオバトル」 (2年)

目的：生徒の自己表現能力及びプレゼンテーション能力の育成

内容：自身が感銘を受けた書籍について、クラスで口頭発表を行い、生徒同士による相互評価のうえ、クラス代表を決定。

最後は学年全体の発表会を行い、学年のビブリオチャンピオンを決定した。

- ① 4/14：体育館にてビブリオバトル概要説明
- ② 4/21：音声入力ツールを使用したビブリオ原稿作成



📍 ビブリオバトル③ 学年大会の様子

③ 4/28：ビブリオバトル①（クラス内グループ大会）

④ 5/12：ビブリオバトル②（クラス大会）

⑤ 5/26：ビブリオバトル③（体育館にて学年大会）

事後課題：取組に対する感想・同級生の発表への感想（フォームにて集約）

・生徒発表書籍

水木しげる ほんまにオレはアホやろか

梨木香歩

西の魔女が死んだ

小林 剛 裁判長！桃太郎は『強盗致傷』です！

筒井康隆

残像に口紅を

斜線堂有紀 恋に至る病

住野よる

か「」く「」し「」ご「」と「」

生徒が取組やすい内容で、探究活動に係る取組において、初めに行うコンテンツとして適切であった。口頭発表の際は、原稿を見ないことを目標としていたので、自然とジェスチャーも使い、上手に伝えている生徒がたくさんいた。事後アンケートの結果、多くの生徒が「大変よくできた」「よくできた」と回答している。同級生のいつもとは違う一面や、考えを聞くよい機会となった。

【4】先行実施授業「地域課題探究（沖縄について）」（2年）

目的：修学旅行で訪れる沖縄について、多面的に調査し、自然文化や歴史、風土等について「問い立て」を行うとともに、調査結果から見えてくる課題や高校生独自の視点を見出す。探究学習を通して、地域に関わる面白さを知ること、で、「将来も地元に住んで、貢献したい」と考える生徒を増やす。地域の特性を知り、社会を知り、未来へ思考するスキルを身につける。

内容：

① 5/28：導入（地域探究について）、テーマ希望調査

② 6/16：グループ分け、テーマ設定（4～6人の班に分け、提示された10テーマから研究していくテーマを決める。）※10のテーマについては、51ページに掲載している。

③ 6/23：「問い立て（学習）」（マインドマップを参考に小テーマを決め、「問い」を立ててみる。）

④ 6/30：「問い立て（講演）」（大阪公立大学の先生から学ぶ）

⑤ 9月～ グループごとの資料作成

⑥ 10/28 クラスによる代表者選考会

⑦ 11/4 代表グループの内容推敲及び他のグループの振り返り

⑧ 11/10 探究学習発表会において代表グループが発表

生徒・教員ともに探究活動における「問い立て」の難しさを実感することとなった。大阪公立大学 池田教授の講演の中で、「良い問い立ては、ギャップから生まれる」「ある程度知っていることをテーマにしないと、疑問は生まれにくい」など、ヒントとなる言葉をいただいた。①興味関心が持てて、②多様な答えがあり、③深堀りできる、そのようなテーマに辿り着き、しっかりと納得解を導き出してもらいたい。



「問い立て(講演)」の様子

また、修学旅行で沖縄を訪問した際には、現地で事前に調査した内容との比較検討を行った。

事前に探究学習をした内容について、実際に現地へ赴き、ファームステイ等で地元の人々から直接話を聞くことで、生徒が自身の探究学習を振り返ることができ、より深い学びに繋がった。

【5】「地理総合」フィールドワーク（2年）

1. 日 時 令和7年11月10日（月）～14日（金）
2. 場 所 本校から金剛駅（南海電鉄）にかけての地域
3. 学 年・組 2年全クラス
4. 題 材 名 ブラサヤマ 一歩いて発見！地形と歴史のフィールドワークー
5. 題材の目標

（1）【知識及び技能】

本校周辺での現地調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。

（2）【思考力・判断力・表現力等】

本校周辺の地理的な課題について、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

（3）【学びに向かう力、人間性等】

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、地域連携を重視する本校の生徒としての自覚などを深める。

6. 教材観

この単元は、地理学習の一環として、本校から金剛駅（南海電鉄）にかけての地域のフィールドワークを実施する。

第1時では、大阪狭山市の概要について扱う。本市や周辺の市町村の位置・地形を知り、新旧地形図を比較することで、フィールドワークで学習する内容を補完させ、本市への関心を高め、深い学びへと繋げさせたい。

第2時である本時では、現地調査を実施する。フィールドワークを通して、本市の地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、地域連携を重視する本校の生徒としての自覚などを深めさせる。本市の地理や歴史について理解させ、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、設定した主題に対して多面的・多角的に考察、構想し、表現させたい。

7. 生徒観

本校生徒は教員の指示のもと、的確に行動することのできる生徒が多い。指示された事柄に対して行動する力は十分だが、主体的に考えて行動することに関して苦手意識を持つ。

本時では、本市に関する知識を身につけ関心を高めるほか、現地調査を通じて、一つの事象を多面的・多角的に考察する力を養わせ、主体的にかつ広い視野で課題を解決しようとする姿勢を身に付けさせることをめざすこととした。

8. 指導観

本題材を通じて、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解させ、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現できるような指導をめざす。そのため本市に関する知識を一方通行的に教授するのではなく、適宜問いを投げかけることで、地理的な見方・考え方を養うことができるような指導となるよう努める。あわせて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うために、生徒一人一人が諸事象について熟慮する時間を確保できるよう、留意して展開する。

9. 題材の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に取り組む態度【c】
本校周辺での現地調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。	本校周辺の地理的な課題について、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、地域連携を重視する本校の生徒としての自覚などを深めようとしている。

10. 題材の指導と評価の計画（全2時間）

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準（評価方法）
		a	b	c	
第1時	本市や周辺の市町村の位置・地形を知り、新旧地形図を比較することで、本市の概要について理解する。	◎	○		<p>【a】課題冊子に取組、本市の概要を理解している。</p> <p>【b】課題を通して、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに関して多面的・多角的に考察している。</p>
第2時 (本時)	本市の地理や歴史の理解を深め、地理的な見方・考え方を養い、諸事象を多面的・多角的に考察する。	○	◎	○	<p>【a】地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。</p> <p>【b】地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、諸事象を多面的・多角的に考察している。</p> <p>【c】地域連携を重視する本校の生徒としての自覚を深めている。</p>

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

本校の周辺地域を基に本市についての知見を広げ、フィールドワークを通して諸事象を多面的・多角的に考察する。

(2) 本時の評価規準

【a】地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。

【b】本校周辺の地理的な課題について、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、諸事象を多面的・多角的に考察、構想している。

【c】よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、地域連携を重視する本校の生徒としての自覚などを深めようとしている。

(3) 本時の準備物

- 名列
- クリップボード (20 枚)
- フィールドワーク実施プリント (再配布用数枚)
- 資料
 - ・資料 1 : 大阪狭山市及び周辺の地形
 - ・資料 2 : 日本書紀における大阪狭山市に関する記述
 - ・資料 3 : ルートマップの断面図
 - ・資料 4 : 河岸段丘の形成と構成
 - ・資料 5 : 天井川の形成
 - ・資料 6 : 大阪狭山市防災マップ
 - ・資料 7 : 市内を通る歴史街道

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>○開始チャイムが鳴るまでに東門に集合する。</p> <p>①筆記用具 ②フィールドワーク実施プリント(『ブラサヤマー歩いて発見! 地理と歴史のフィールドワーカー』)</p> <p>○集合時クリップボードを借りる。</p> <p>○フィールドワーク時の注意事項を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリップボードはフィールドワーク終了後に返却すること。 ・周囲の交通状況に常に気を配 	<p>○開始前に出欠を確認する。</p> <p>○①を忘れた生徒には、他の生徒に借りるよう指示し、②を忘れた生徒にはその場で再配付する。</p> <p>○その際、引率教員を紹介する。</p>	

	<p>り、広がって歩かないこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私道では大声での会話は慎むこと。 ・体調が優れない場合は早急に申し出ること。 <p>○今回のルートと目的を確認した後、A地点へ移動する。</p>	<p>○今回のルートと目的を伝える。</p> <p><ルート> 本校東門(A地点)から金剛駅前(H地点)をルートに沿って移動する。</p> <p><目的> 本校の周辺地域を基に本市についての知見を広げ、フィールドワークを通して諸事象を多面的・多角的に考察する。</p>	
<p>展開 1</p>	<p><A地点> ○「狭山」「半田」の2地名の由来を理解する。</p> <p>○B地点に移動し、本校の周辺地形を考察する。</p> <p><B地点> ○資料3からA地点とB地点の標高差を確認する。</p>	<p>○2地名の由来を説明する。</p> <p><狭山> ・東の羽曳野丘陵、西の泉北丘陵に挟まれ、なだらかな丘陵と段丘を中心に形成された地形に由来している<資料1>。 ・「さやま」という地名の残る場所は、全国13か所で確認できる。</p> <p><半田> ・『日本書紀』には「河内の狭山の埴田水少なし」という記述がある。<資料2> ・埴とは橙色をした砂礫質の土壌を指し、透水性が高いため水田耕作には適さない。 ・そのため、日本書紀では「水少なし」と記述されていた。 ・半田は埴田の地名が変化したものと伝えられている。</p> <p>○ルート西側(本校側)を振り返らせることで、2地点間に標高差があることを読み取らせる。<資料3></p>	<p>○「狭山」「半田」の2地名は周辺地形に由来していることが理解できている。【a】</p> <p>○A・B地点の標高差と西除川から、本校の周辺地形が河岸段丘であると考察できている。【b】</p>

	<p>○周辺に西除川が流れていることを確認し、本校の周辺地形が河岸段丘であることを理解する。</p> <p>○河岸段丘の形成・構成について復習する。</p> <p>○C地点に移動し、西除川からC地点の周辺地形を多角的に考察する。 ＜C地点＞</p> <p>○西除川の河床とルート東側（金剛駅側）に広がる水田を比較する。</p> <p>○天井川の形成について復習する。</p> <p>○防災マップから本市の洪水浸水想定区域を読み取る。</p> <p>○C地点以降のルートから周辺地形を理解する。</p>	<p>○周囲に河川が流れていることから、本校は段丘面上に立地しており、周辺地形は河岸段丘であると考察させる。</p> <p>○河岸段丘の形成と構成について説明する。＜資料4＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河岸段丘は河川の侵食によって河川に沿って形成された階段状の地形である。 ・ほぼ平坦な面である段丘面と、それを区切る段丘崖に分けられる。 <p>○西除川の河床から、天井川であることを導く。</p> <p>○天井川の形成について説明する。＜資料5＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川の氾濫から守るための堤防がつくられると、河道に砂礫の堆積が進んで河床が高くなる。 ・河床が周囲の平野面より高くなり天井川が形成される。 ・西除川では数年に一度、重機による河床高度の調整が行われている。 <p>○防災マップを提示し、本市のなかでもC地点周辺における、洪水による浸水の危険性が高いを理解させる。＜資料6＞</p> <p>○蛇行していることから、この道が旧河道であったことを説明する。</p> <p>○蛇行した旧河道がみられるこ</p>	<p>○河床の高さから西除川が天井川であることを考察できている。【b】</p> <p>○防災マップから本市の洪水浸水想定区域を理解できている。【a】</p> <p>○ルートが蛇行していることから、この地域が氾濫原であると理解し、土地利用から周辺</p>
--	--	---	--

	<p>○氾濫原とその構成について復習する。</p> <p>○C地点周辺の土地利用から周辺地形の特徴を考察する。</p>	<p>とから、この地域が氾濫原であるということを理解させる。</p> <p>○氾濫原とその構成について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氾濫原とは、洪水の時に流路に沿う一帯が浸水することによってつくられた起伏の小さな土地である。 ・地表は河川の堆積物に覆われ、河川の蛇行・三日月湖・自然堤防・後背湿地などの地形がみられる。 <p>○ルートを含んで北側には水田が、南側には住宅が広がっていることから、それぞれ後背湿地・自然堤防が築かれたことを導く。</p>	<p>地形の特徴（自然堤防・後背湿地）を考察できている。【a】 【b】</p>
<p>展開2</p>	<p>○D地点に移動し、吉川家住宅から周辺地域を歴史的に考察する。</p> <p><D地点></p> <p>○吉川家住宅の概要を理解する。</p> <p>○吉川家住宅の当時の役割を考察する。</p>	<p>○これから私道を歩くため、迷惑にならないように再度注意する。</p> <p>○吉川家住宅について説明する。</p> <p><構造></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川家住宅は氾濫原上に立地しているため、洪水の被害を抑えるため、石積みの家屋となっている。 <p><成立年代></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川家住宅は江戸時代初期の建築で、当時の河内地方の農家の姿をよく伝えていることから、大阪の有形文化財に指定されている。 <p>○隣接している郷倉から、半田村の庄屋を務めていたことを導く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷倉とは、江戸時代において郷村などで、年貢米を上納するまで貯蔵し、また凶作に備 	<p>○吉川家住宅について、その構造を周辺地形から考察し、隣接している郷倉から半田村の庄屋を務めていたことを理解できている。【a】【b】</p>

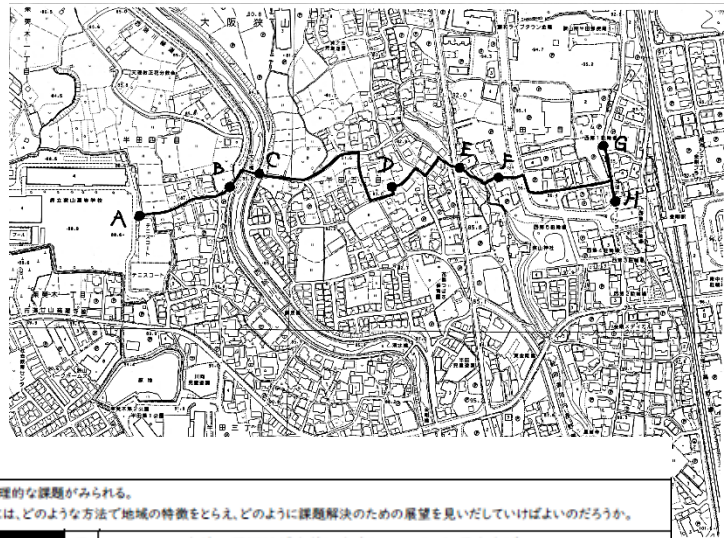
	<p>○E地点に移動し、E地点周辺の標高と植生から周辺地形を考察する。</p> <p><E地点></p> <p>○F地点に移動して、地名から周辺地域を歴史的に考察する。</p> <p><F地点></p> <p>○E－F地点間の坂道の名称について理解する。</p> <p>○周辺地形から半田城の立地要因とその範囲について考察する。</p>	<p>えて穀類を保存した共同倉庫を指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷倉は庄屋に管理責任が負わされていた。 ・庄屋とは、年貢割当・法令伝達などの責任を負い、村政全般を統括した村の長を指す。 <p>○E地点を挟んだ東西で10m程の標高差があることを理解させる。<資料3></p> <p>○E地点の西側には、E地点周辺は段丘崖であることを導く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高地や集落を守り、崖崩れを防ぐため、段丘崖上では竹林が形成されている。 <p>○「シロノサカ」について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この坂道を上りきった先に広がる段丘面に、南北朝時代に築かれた半田城があったとされている。 ・当時河内国を治めていた楠木正成軍の武将は南朝側に立ち、戦いが繰り広げられていたが、半田付近が戦略上の拠点となっていた。 <p><立地要因></p> <p>○半田城は段丘崖の落差を防御地形として利用する中世城郭であったことを導く。</p> <p><立地範囲></p> <p>○シロノサカを含む段丘崖は狭山神社付近まで伸びていることから、南北は狭山神社からシロノサカを含む付近まで、東西は当段丘崖から狭山神社東側に広がる段丘面付近まで</p>	<p>○E地点周辺の標高差と植生から、周辺地形が段丘崖であることを考察できている。【b】</p> <p>○シロノサカという名称の由来を理解し、周辺地形から半田城の立地要因とその範囲について考察できている。【a】</p> <p>【b】</p>
--	--	---	--

	<p>○G地点に移動し、歴史街道から当時の信仰に思いを馳せる。</p> <p><G地点></p> <p>○中高野街道について理解する。</p>	<p>が半田城跡であることを導く。</p> <p>○中高野街道について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平安時代以来、京・大坂・堺から多くの参詣者が高野山をめざした。 ・大阪狭山市内には、高野山に向かう3つの街道が通っている。<資料7> ・中高野街道は、四天王寺から平野を通り、河内長野で他の高野街道と合流して高野山へと至る参詣道である。 ・沿道には西迎寺や極楽寺、風輪寺など、天台宗の一派が開いた融通念佛宗の寺院が点在している。 ・当街道は大阪市平野区にある融通念佛宗の総本山大念佛寺と、高野山を結ぶ「融通念仏の道」でもある。 	<p>○中高野街道について理解し、当時の街道の役割を理解できている。【a】</p>
	<p>○H地点に移動し、金剛駅から近代化の歩みを理解する。</p> <p><H地点></p> <p>○金剛駅の変遷について理解する。</p>	<p>○金剛駅の変遷について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の敷設は近代化を象徴するものである。 ・金剛駅は高野鉄道、高野登山鉄道を経て、1947（昭和22）年以降南海電鉄が経営している。 ・大阪狭山市には、1898（明治31）年に大小路駅（現堺東駅）から狭山駅まで鉄道が敷設され、その後河内長野まで延長された。 ・狭山―河内長野間に1898（明治31）年に河内半田駅が敷設され、その後、狭山遊園 	<p>○大阪狭山市における鉄道敷設の変遷について理解できている。【a】</p>

		<p>前駅と改称され、2000（平成12）年から大阪狭山駅となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金剛駅は1937（昭和12）年に増設された。 ・現在の金剛団地周辺で開催された「金剛園」（期間限定の四国八十八か所巡りを模したテーマパーク）の最寄り駅として新設された。 	
まとめ	<p>○H地点を出発し、帰校する。</p> <p>○クリップボードを返却し、フィールドワーク実施プリントを提出する。</p>	<p>○体調不良者がいないか確認する。</p> <p>○Classroomに配信されている問いへの回答をすることを指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「狭山」・「半田」という名称の由来は何でしょうか。 ・西除川はどういう特徴をもつ河川ですか。 ・西除川周辺の土地利用について、周辺地形に触れながら説明してください。 ・吉川家住宅の構造を周辺地形に触れながら説明してください。 ・半田城の立地要因を周辺地形に触れながら説明してください。 ・金剛駅前に通っている歴史街道は何でしょうか。 ・金剛駅が新設された要因は何でしたか。 	<p>○現地調査で学習した内容を適宜メモし、問いへの回答を通して学習内容を整理できている。【c】</p>

(5) ルートマップ

- A地点：本校東門
- B地点：大正橋横駐車場
- C地点：大正橋
- D地点：吉川家住宅郷蔵前
- E地点：シロノサカ下
- F地点：シロノサカ上
- G地点：立て看板
「中高野街道と狭山神社」前
- H地点：金剛駅前



第3部 持続可能な地域づくりと私たち

第2章 生活圏の調査と地域の展望	私たちの生活圏には、多岐にわたる地理的な課題がみられる。
1節 生活圏の調査と地域の展望	生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのだろうか。
フィールドワーク実施要項	目標 本校の周辺地域を基に本市についての知見を広げ、フィールドワークを通して諸事象を多面的・多角的に考察する。

実施日

令和6年11月10日(月)～14日(金)内の「地理総合」の授業(雨天順延)

実施方法

出席番号1～20番をA班、21番以降をB班として、グループごとに実施する。

フィールドワーク 実施 班	
持ち物	① 筆記用具 ② フィールドワーク実施プリント(『ブラサヤマ 一歩いて発見!地理と歴史のフィールドワーク』) ③ フィールドワーク終了後に提出すること。
注意事項	・開始チャームが鳴るまでに東門に集合すること。 ・集合時、担当教員からクリップボードを借り、フィールドワーク終了後に返却すること。 ・周囲の交通状況に常に気を配り、ぶつかって歩かないこと。 ・私道では大声での会話は慎むこと。 ・体調が優れない場合は早急に申し出ること。

フィールドワーク 待機 班	
持ち物	① 筆記用具 ② Chromebook ③ フィールドワーク課題冊子(『ブラサヤマ前日課 -これで君もさやマスター!?-』)
注意事項	・開始チャームが鳴るまでに3階西教室に集合すること。 ・教室前方に掲示している名簿に〇印を記入し、座席表を見て着席すること。 ・課題冊子に取り組む際、適宜相談したり、Chromebookで調べたり。 ・色鉛筆や鉛筆削りは教卓横に置いておくものを使用し、使用後は必ず戻すこと。 ・所が困ったことがあれば、社会科学準備室にいる先生を訪ねること。

実施日表

雨天時は通常授業とし、予備日に順延する。

	10日(月)	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)
1限	2年6組 A:実施 B:待機		2年3組 A:待機 B:実施		2年2組 A:待機 B:実施
2限				2年2組 A:実施 B:待機	
3限			2年4組 A:待機 B:実施	2年5組 A:実施 B:待機	
4限	2年1組 A:実施 B:待機	2年4組 A:待機 B:実施			2年5組 A:待機 B:実施
5限		2年1組 A:待機 B:実施			2年6組 A:待機 B:実施
6限		2年3組 A:待機 B:実施			
	17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)
1限	2年6組		2年3組		2年2組
2限	予備1		予備2		予備2
3限				2年2組 予備1	
4限			2年4組 予備2	2年5組 予備1	
5限	2年1組 予備1	2年4組 予備1			2年5組 結団式
6限		2年1組 予備2			2年6組 結団式
		2年3組 予備1			

昨年に引き続き「地理総合」の授業にて地域学習のフィールドワークを実施した。本校の半数の生徒は地元出身でない。学習を進めていく中で生徒自身が地理的な大阪狭山市についての学びを深める結果となった。生徒たちももっと知りたいという好奇心を育むことにもなった。

【6】先行実施授業「JICA 関西交流」（3年）

目的：海外の国々の文化と日本文化との違いを比較することを通じて社会性（グローバル意識）を育成する JICA 関西で活動する活動員から海外での生活や文化を紹介いただき、日本と比較して考察を行い、スライドにまとめて発表を行った。

内容：

1 全体の計画

	ねらい	内容	担任の動き	場所
10月21日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> JICA 関西について実際のお話を聞く “心の豊かさ”について考えるきっかけをもつ。 	JICA 関西スタッフより前回の生徒からの質問の回答とご自身の取組についての講話	生徒の整列・点呼	体育館
10月27日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとって「心が満たされる瞬間」や「大切にしたい価値観」を言語化できるようにする。 社会の中で、自分の小さな行動が誰かの豊かさにつながることを実感する。 	“心の豊かさ”についてワークシートに取り組む	ワークシートの配付	各クラス
11月5日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> 実際に行動し、誰かの豊かさと自分が繋がることを知る。 自身の視野を広げる 	JICA 関西より海外青年協力隊の方が6名来校し、1人20分の講話を2回実施 生徒は話の内容をメモにまとめて置き、自身の考えと照らし合わせる	担当されているHR教室に来たJICA 関西の方の対応	各クラス
11月10日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> “心の豊かさ”について自分の考えをまとめる。 	“心の豊かさ”について自身のとらえ方・考え方を1枚の紙にまとめて11月28日（金）に3分間の発表を行う 課題①“心の豊かさ”とは何かをデザインする 課題②それを感じる場面として「自分」・「他者」・「社会」に対してそれぞれまとめる		各クラス
11月17日	<ul style="list-style-type: none"> 社会の中で、自分の小さな行動が誰かの豊か 	完成 3分間の発表に向けて		各クラス

(月)	さにつながることを実感する。	準備する		
11月 28日 (金)	・自身の考えを言語化する ・他者の考えを知る	発表クラスでグループを作り発表を行う		各クラス


2 JICA 学習資料(一部抜粋)

調べ学習を掘り下げるための導入として、課題①～⑧を実施した。その一部を下に紹介する。これらの工夫は、生徒が意見を闊達に述べ合う環境作りとして成果があった。次年度実践する際には、JICA 職員の意見も参考にする。

「心の豊かさ」と向き合う
～ J I C A 関西の取組と海外青年協力隊について～

ここからの探究学習では自分自身の「心の豊かさ」について考えてもらいます。
自分にとって「幸せな人生」とは何か。また、「豊か」とはどんな感覚なのか。
今回は「JICA 関西の海外青年協力隊」の方が海外で見てきたものを参考に、様々な「心の豊かさ」を知り、自分自身の考えと比較しながら、今の自分にとって、もっとも「豊か」と感じる瞬間を見つけてもらいたいと思います。

設定
あなたたちは JICA 関西の新人研修員…。世界の課題を学び、「豊かさとは何か」を知るために教室に集まった。



突然「国際協力の謎を解かないと外に出られない！」という試練が課せられる。制限時間は 30 分。
JICA クイズをクリアし、担任の先生に正しい暗証番号を伝えて脱出せよ。

- ・班で協力して Chromebook を活用し、クイズに答えよ。
- ・JICA 関西クイズの答えは全て「JICA 関西」のホームページにある。
- ・「暗証番号のメモ」を同封しておくので指示に従い、脱出せよ。

JICA 関西クイズ

課題① JICA 関西が管轄する「関西 2 府 4 県」とは何県・府を指しているのだろう

(解答目安:0分)

課題②JICA の取組を把握しよう!! (解答目安:9分)

JICA 関西では、広報展示室・資料室・1階ロビー・食堂を「JICA「？」地球ひろば」として、国際協力やSDGsに関する情報を一体的に発信しています。

課題③

JICA は国際協力の紹介をする企画展を開催し、世界が直面する課題を、わかりやすく学べるようにしている。また、JICA 海外協力隊や技術協力といった JICA 事業の紹介も展示している。「JICA が行う開発途上国への協力」を通して、世界のことや、ODA (政府開発援助) について、より深く知ってほしい。(解答目安:9分)

課題④ 訪問プログラムで「食事(有料)」の提供をしていることを学ぼう!!

(解答目安:9分)

課題⑤ 次の記事を読み、JICA の歴史を知ろう(解答目安:1分)

課題⑥ 海外協力隊員の体験談を読んでもみよう(解答目安:0分)

課題⑦ 海外協力隊員の体験談をもっともっと漫画でも読んでもみよう(解答目安:7分)

課題⑧ JICA コンセプトムービーがある!ぜひ見て!!聞いて!!(解答目安:1分)

※ 各課題で使用した写真・文章・動画等は、省略しています。

3 成果について

海外の国々の文化と日本文化との違いを比較することを通じて、社会性(グローバル意識)を育成するとともに、ウェルビーイングの価値観を思考させる学びとすることを目的とした。

生徒の発表の中には、日本にいる自分自身と比較して「世界全体がともに幸せとなるためにできることはないか」という感想もあり、昨年度より更に学習の深まりが見られた。



【7】先行実施授業「深学探究基礎講座・大学模擬ゼミ」（2年）

目的：学問に関心をもって深く学び、自ら問立てを行い、課題設定のプロセスを体験する。

内容：学問分野ごとに大学教員を招聘し、生徒が将来学びたいと考えている学問に分かれてグループを編成し、ゼミ形式で実施。大学教員による講義をもとに、生徒はその学問を「なぜ学ぶのか」について探究学習を行った。生徒はグループに分かれて学問毎の課題を設定、大学教員とやり取りを行いながら、スライドにまとめて発表し、生徒同士で相互評価を行った。また、大学教員から評価及び指導助言をいただき、生徒へのフィードバックを行った。

1 全体スケジュール

月	日	テーマ	内容
12	1	カタリバ「学びは今と未来に必要なか」	グループでトークテーマ一覧から3種類選び、「MC」「アシスタント」など役割を振り、それぞれの考えを語り合う
	15	模擬ゼミ① 「学ぶとは」 大学教授来校、講義	大学教授が来校し、分野別に話を聞く ⇒課題をもらう
		<u>冬休みの課題</u> 教授から教わったことをスライドにまとめておく <u>始業式後～次の探究の時間までに</u> 他者の意見を聞き、自分と向き合う材料にする	担当者より Google スライドを配信 12月15日（月）～1月8日（木）で完成をめざす。（まとめ学習） ⇒1月9日（金）～1月19日（月） 「45期探究 week」と題して 先輩・後輩・先生方・保護者に 「なぜ人は学ぶか」「学ぶ必要はあるか」をインタビューしておく
1	19	模擬ゼミ③「共感性とリーダーシップ」	自分で作成したスライドをグループで紹介し合い、大学教授の話をどのような解釈で理解してまとめたのか共有し、発表に向けたグループの思考の方向性を決める ⇒スライドにまとめる
	26	模擬ゼミ④「テーマを深掘りしていく」	大学教授の講義で出た課題に対して自分たちの考える「学び」を掛け合わせながら 「なぜ」を深く掘り下げていく ⇒思考ツールを用いる
2	2	模擬ゼミ⑤「分野横断インタビュー」	分野ごとに話をする前にクラス内でインタビューを実施、他の分野の話を聞いた人が 現在たどり着いている考えを聞きとる。 ⇒その後自身のグループに戻り、最終的な共有を行い完成に向かう。 ⇒発表に向けた台本作り：音声の文字おこしなどツールを使う
	9	模擬ゼミ⑥ 「学びの意義発表」 大学教授来校	再び大学教授に来ていただき、自分たちの考える「学び」についての発表を行い、講評を仰ぐ
	16	模擬ゼミ⑦ 「発表を振り返る」 ⇒来年度からの受験生としての自覚を芽生えさせる	他のグループの発表を聞いて、今回の学習を振り返る

2 担当大学及び発表テーマ

大学名	型	研究テーマ	人数	班	教室
四天王寺大学	文	環境問題に正しく向き合うための環境教育を考えよう ～メガソーラーやクマ問題などを題材にして～	14	3	社会科教室
桃山学院大学	文	地域ブランドについて	36	7	2-6
桃山学院大学	文	映像と言葉の関係を考える ～無音のワンカット映像の撮影と上映を通して～	10	2	3階西教室
桃山学院大学	文	日本の社会問題とそれへの対応	8	2	2-5
桃山学院大学	文	メディアの中のステレオタイプ	33	6	2-4
大阪大谷大学	文	文学と表現規制	10	2	3階中教室
近畿大学	理	未来の自分はどう活躍してる？高校生である今の自分にはどんなに考えても正解にたどり着かない問い。だって未来のことだから。わからないままでも成功に導く準備ができるとしたら それは何？	41	8	2-3
森ノ宮 医療大学	理・ 文	がん患者が抱える問題とそのサポート	25	5	2-2
大阪大谷大学	理	薬の残薬問題を解決する方法を考える	17	3	2-1
大阪常磐会大学	文	こどもの身体活動・あそびを増やすために何をすれば良いのか？	34	5	3階東教室

3 模擬ゼミ発表会概要

大学教授からいただいた課題に対する回答とそこから考えた学ぶ意義について班のまとめを発表

時程	内容	生徒の動き	担任の動き	備考
15:05 ～ 15:15		班ごとに着席しておく	発表の準備・chromebookの指示	*教授は学校で事前で作った評価シートを受け取っています。 *本時の流れは事前にお伝えしています。 教員は班ごとの発表を進めてください。
15:15 ～ 15:17	★1 教授へ司会を渡す	発表準備完了	生徒に感想・評価シートの配付	
15:17 ～ 16:02	模擬ゼミ発表	1班5分程度の発表を行う		質疑応答に関しては最後にまとめてお話される方、1班ごとにコメントをくださる方など、教授ごとに動きが異なります。
16:02 ～ 16:05	教授からまとめ	評価シート記入 ⇒提出	感想・評価シート回収 (2枚)	

大学模擬ゼミ授業の様子



【8】先行実施授業「深学探究基礎講座 大学魅力発見探究」（1年）

目的：生徒の社会課題の発見や、自己と社会のつながりの発見・調査を目的とする。大学見学を通じて、学びの環境や施設を実際に体験し、グループで意見を交換することで、協働的に学び、進路選択や自己理解を深める。また、その成果を発表することで、発表に向けて、自分たちの伝えたいことをまとめ、表現する機会を持ち、グループでの役割や人それぞれの特性を理解し、活かせる組織作りに取り組む。

内容：

1 課題・成果物

- ・フィールドワークの調べ学習
- ・大学に対する自身のイメージや感想レポート
- ・ポスターセッション用ポスターもしくはスライド

2 学習の流れと実施日程

夏休み…フィールドワークで大学へ

9月末…大学に対する自身のイメージや感想レポート

11月10日（月）探究発表会において優秀ポスターを掲示

3 実施内容

- ・夏季休業期間中のフィールドワーク

1年生（46期生）に「各自興味のある大学へ、見学に行き、大学の魅力を発見する」という課題を出した。昨年に引き続きツールとして「フィールドビンゴ」を活用し、興味のある項目を9つに絞った。何がその項目に該当するかは生徒たちが現地で判断し、それぞれが項目に該当すると感じた場所の写真を撮り、コメントを残させた。この課題は全てフォームを使用し、入力させた。

- ・9月末に大学に対する自身のイメージや感想レポートの作成
- ・魅力共有会

夏休みに訪問した大学ごとに1名～6名のグループを作り、話し合いを行った。自己紹介とアイスブレイクを行った後、ここまでの3つの課題をグループ内で共有した。

大学オープンキャンパスに生徒が参加し、授業内容、施設設備など、大学の特色や魅力についてレポートにまとめ、その後同じ大学を調べた生徒でグループを組み、各大学の魅力を検討する取組を実施した。学習のまとめとして、検討した結果をスライドにまとめて学年発表を行い、生徒同士で相互評価を行った。

昨年の傾向と少し異なり、「知っている大学」を調べるから「将来行きたい学校を探す」といった意識をもった生徒が多く見受けられた。一方WEBサイトでわかる内容も多く、調べ学習の域から一歩出するための仕掛けを工夫することが必要である。

ICT機器を活用したデータの収集及び分析等の活動について、生徒は、教員の想定以上に積極的に取り組んでおり、成果が見られた。

【9】先行実施授業「狭山池まつり 探究活動」（3年）

「総合的な探究の時間」の科目別選択科目において実施。地域のイベント「狭山池まつり」の集客状況や会場の利点・改善点について、1人1台端末を活用しデータ収集・分析を行ったうえで、次年度の開催に向けて「狭山池まつり」の運営団体への提言をまとめる授業を行った。

- 1 対象生徒：第3学年 選択者 16名
- 2 実施時期：4月第3週～6月第4週（9時間）＋狭山池まつりへの参加
- 3 プログラム名：データ分析を通じて、高校生にとって魅力的な「狭山池まつり」を提案しよう
- 4 単元目標
 - ・探究活動におけるデータの重要性が理解できる。（知識・思考・判断）
 - ・データを分析し、自分の意見を述べるができる。（思考・判断・表現）
 - ・協働的な学びから、考えを深めることができる。（思考・判断・学びに向かう人間性（主））
 - ・課題解決に向けた提案書を作成することができる。（技能・思考・判断・表現）
 - ・提案を他者に伝えることができる。（表現）
 - ・活動の内容を省察し、自らの成長を感じ取ることができる。（学びに向かう人間性（主））
- 5 評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう人間性（主）
できる A 「十分満足」	新しい・知識技能を獲得し、有効に活用することができる。	データや他者の意見を分析し、主張の根拠を見つけることができている。 分析結果を、主張の根拠として用いて表現できている。	積極的に意見を述べたり、相手の意見を十分に聞いたりするなど、協働的な学びを深めることができている。
満足できる B 「おおむね」	新しい知識・技能を獲得しようとしている。	データや他者の意見を分析しようとしている。 分析結果を表現しようとしている。	自分の意見をのべたり、相手の意見を聞いたりするなど、協働的な学びを深めようとしている。
要する C 「努力を」	新しい知識・技能の獲得が見られない。	データや他者の意見を分析しようしていない。 分析結果が表現されていない。	自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いたりするなどの協働的な学びへの参加が見られない。

6 本プログラムにおける探究的活動

- ・ Googleマイマップを利用したデータ作成のためのフィールドワーク。
- ・ データ分析による調査・分析活動。
- ・ 根拠に基づく主張を行う表現活動。
- ・ 班活動を通じた協働的な学びと主体的活動。
- ・ 周囲を巻き込み、協力を求める他者とつながりを広げる協働的な学び。
- ・ ポートフォリオを用いた班活動の記録と、活動後の省察。
- ・ 探究成果のプレゼン発表

7 単元計画

時数	授業内容（生徒の活動）	生徒の到達目標（資質・能力）	留意事項・補足
第1時 （全体）	①探究活動の意義について理解する。 ②単元の目的・目標を知る。 ③Google マイマップの利用による標本データの作成方法を理解する。	①探究活動の意義について知り、理解する。（知） ②本単元の目標と、ゴールを理解する。（知） ③Googleマイマップの使用方法を習得する。（技）	③マイマップは個人のスマホでの利用を前提とし、アカウントの切り替えについて特に注意して説明を行う。
第2時 （班）	①班活動ポートフォリオについて理解する。 ②マイマップによるデータ作成の協力者を募るチラシを作成する。 ③チラシの配付・周知方法を考え、決定する。	①班活動の記録について理解する。（知） ②協力を得るために工夫することができる（思・表） ③有効な周知方法について検討することができる（思・判）	①班分けを行い、今後の班活動の記録方法を指示する。 ②手書き、Conva、ドキュメントなど、表現方法を選択できるように示す。 ③複数の方法が議論されるようファシリテートする。
第3時 （全体）	①狭山池まつりへの参加形態について、全体で共有を行う。 その他は未定	未定	①狭山池まつりへの参加について打ち合わせを行う。
GWの課題 （個人）	①狭山池まつりに参加し、標本データを作成する。 ②狭山池まつりに参加した感想を提出する。（フォームを利用）	①標本データの作成を行うことができる。（技・思・表） ②狭山池まつりを体験し、興味・関心を高めようとしている。（思・主）	・狭山池まつり当日はクラス担当者による巡回を行う。
第4時 （班）	①感想データのAI分析を行う。（ワードクラウド・共起分析） ②分析結果を基に意見交流を行う。	①AI分析ツールを使うことができる。（技） ②テキストマイニングの結果を分析しようとしている。（思） ②自らの意見を述べ、他者の意見も聞き入れようとしている。（表・主）	①AI分析には、ユーザーローカル社のテキストマイニングを利用する。 ①集計データを配信し、生徒にAI分析を行わせる。 <u>※個人情報の消込を行う。</u> ②意見を述べた後には拍手を行い、否定的な意見ばかり返さないよう指導を行い、

第5時 (班)	③マイマップのデータを参照し、分析を行う。 ④分析した結果を基に意見交流を行う。 ⑤班の話し合いの内容を「班活動ポートフォリオ」に記録する。 ※以降、班活動ポートフォリオは班活動毎に記録を行う。	③マップ上に分布したデータを分析することができる(思・判) ④自らの意見を述べ、他者の意見も聞き入れようとしている。(表・主) ⑤班活動の記録を残すことができる。(技・思・判・表)	心理的安全性の確保に努める。 ・1班の人数は5名で編成する。 ・班活動の最初に役割分担を行わせる。 ・班活動ポートフォリオには、活動の過程をできるだけ詳細に記録するよう指示する。
第6時 (班)	①狭山池まつりをさらに盛り上げるためのアイデアを検討する。 ②必要な情報を収集する。 (他の自治体での祭り、狭山池まつりの内容など) ③データ分析、調べ学習を継続し、アイデアの具体化を図る。 ④検討内容をスライドにまとめ、プレゼンテーション発表が行えるよう準備を行う。	①班員と協働的な学びを深めようとしている。(主) ②テーマに沿った調査を行い、必要な情報を収集することができる。(技) ③班員と協働的な学びを深めようとしている。(主) ③分析・調査した内容を良いアイデアにつなげようとしている。(思・主) ④表現方法を検討し、工夫しようとしている(表・主)	④プレゼンテーションの時間は3分～5分とする。
第7時 (班)			
第8時 (班)			
第9時 (全体)	①クラス内でプレゼンテーションを行う。 ②各班の発表内容を記録する。	①相手に伝わるよう、発表しようとしている(表・主) ②発表者に対し、真摯な態度で向き合おうとしている(主)	①1班3分～5分 ①発表後には必ず拍手を行うことなどを事前に示す。 ②後に、質問ができるような記録となるよう指示を行う。
夏休みの課題 (個人)	①他班の発表について自分の意見をまとめる。 ②班活動ポートフォリオに班活動の振り返りを入力する。	①自分の感じたことや意見を述べることができる。(表) ①他班の発表の内容を深く理解しようとしている(思・主) ②活動の記録をまとめ、省察した内容を記録しようとしている(表・主) ②感想や質問を分析から、班活動の結果を長短両面から省察しようとしている(思・主)	①どの点がどのように良かったのかなど、具体的に表現するよう指示する。 ②浅い振り返り(楽しかった・よかった)や、反省のみとなってしまうや、指示する。

8 新学科での実施に向けた先行授業として、以下の点を検証

- ・地域の大きなイベントである狭山池まつりへの参加を要件とし、狭山池まつりの分析・提案を通じて、地域への興味・関心を高めさせることができるか。
- ・データの作成及びデータ分析の体験が生徒にとって楽しく、興味関心を高める活動となっているか。
- ・生徒に新たな知識・技能を身に付けさせることができたか。
- ・班活動や個人活動の記録、振り返りを通じて、探究活動では記録、振り返りを行うものであるとの認識を持たせることができたか。
- ・週1単位のスケジュール感で実施した場合の効果や生徒の様態について観察。

<p>どうして授業で“探究”するのか</p> <p>《ChatGPTに聞いてみると》 プロンプト「日本の高校生にとって、授業で探究活動を行う意義と理由を箇条書きで教えてください」</p> <p>実践的な学び 探究活動は理論だけでなく実践的なスキルを身につけさせるため、実世界での問題解決能力を向上させます。</p> <p>自己表現と自己肯定感の向上 生徒が自ら興味を持ったテーマを探索することで、自己表現の機会が増え、自信を深めることができます。</p> <p>協力とチームワークの醸成 グループでの探究活動を通じて、協力的な、他者とのコミュニケーション能力を高めます。</p> <p>問題解決能力の育成 確固たる問題解決スキルを養うことで、将来のキャリアや大学進学において有利になります。</p> <p>創造性と批判的思考の促進 新しいアイデアを考へ出すための創造性と、情報を評価するための批判的思考を養います。</p>	<p>どうして授業で“探究”するのか</p> <p>《ChatGPTにさらに聞いてみると》 プロンプト「なぜ、今挙げたような資質・能力が必要なのでしょう」</p> <p>とても良い質問です。 先ほど挙げた資質・能力（問題解決力、創造性、協働性、批判的思考など）がなぜ今の時代に必要なのかについて、以下のような理由が挙げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 社会の変化と不確実性への対応 変化の激しい現代社会（AI、グローバル化、気候変動など）では、正解が一つではない課題が多く、「考える力」や「柔軟な対応力」が求められます。 ◆ 知識の“使い方”が重視される時代 単なる暗記や知識の蓄積ではなく、知識をどう活用するかが評価される社会になってきています。探究活動での思考・応用力が必要です。
<p>どうして授業で“探究”するのか</p> <p>《ChatGPTにさらに聞いてみると 2》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 人との協働が不可欠な仕事・社会 社会の多様化が進み、異なる価値観やバックグラウンドを持つ人と協力する力（協働性やコミュニケーション力）がより重要になっています。 ◆ 主体的な進路選択のために 将来の進路が多様化している中、自分の興味・関心を深く探る探究活動は、自分らしい生き方・キャリア選択につながります。 ◆ 学習指導要領や大学入試改革との関係 現在の教育改革（「主体的・対話的で深い学び」や「総合的な探究の時間」など）は、これらの資質・能力を育てることを重視しており、学校教育の目的にも直結しています。 	<p>どうして授業で“探究”するのか</p> <p>《ChatGPTにさらに聞いてみると3》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 社会の変化と不確実性への対応 ◆ 知識の“使い方”が重視される時代 ◆ 人との協働が不可欠な仕事・社会 ◆ 主体的な進路選択のために ◆ 学習指導要領や大学入試改革との関係 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>探究実践では、これからの時代に必要な資質・能力を身に付けることを目標に活動します！</p> </div>



←Google マイマップを活用した情報の分析

実際に「狭山池まつり」に参加し、情報を収集して分析していく探究のプロセスを体験することで、生徒からは肯定的な評価を得た。次年度は、更に「狭山池まつり」の運営に参画していけるよう、授業内容の検討を進める。

振り返りの方法を含め、次年度実施していくための1人1台端末の活用に向けた指導等、準備を進める。

Ⅲ 地域コーディネーター活動報告

1 令和7年度の主な活動

- ・狭山池まつり龍神舞台の設営及び運営等（4/26・27）
例年通り、生徒会執行部・放送部・軽音楽部・ダンス部・茶道部・他部活により設営撤収
舞台補助・受付・舞台周りの補助・環境整備・出店・出演等、舞台部会議出席（生徒含め）
狭山高校のブースを新しく作り、生徒会執行部による射的出店。
- ・福岡県立八幡高校視察（7/2） 探究授業見学、担当者・コーディネーターと懇談
- ・果樹振興会東会長と懇談（7/25） 大野ぶどうに関して聞き取り
- ・狭山小中地域カタリバ（7/31 大阪狭山市立第七小学校）小中高教員、教育委員会、推進員、狭山高
生が参加。
- ・NPO 法人おむすび（島根県益田市）の大畑理事長が来校・懇談（8/4）
普通科改革に関して助言をいただく。
- ・文化祭グランド舞台で狭山音頭（9/6・7） 狭山音頭保存会、狭山生（事前練習会も）
- ・さやマルシェ（狭山ニュータウン活性化）を『まち探』に向けて視察（10/25 東大池公園）
- ・市子連文化祭（10/26 公民館） 野球部出店、ダンス部ワークショップ
- ・産業まつり（11/22） 商工会による大野ぶどう加工品販売について聞き取り
- ・大阪狭山市教育委員会研修（12/13 大阪狭山市立第七小学校） NPO 法人おにぎりの大畑さん講演、
小中高教員、推進員
- ・狭山池クリーンアクションスペシャルバージョン（12/27）狭山高教員、狭山生多数参加
- ・新春こども祭り（1/10・11）準備・当日参加 狭山生多数出店・出演・ワークショップ
- ・全国高校コーディネータープレ研修（高校コーディネーター全国プラットフォーム構築事業）

<第1回 プレ研修>日時：12月23日（火）13:00～14:30（オンライン）

テーマ：これからの教育に必要とされるコーディネーター力とは

講師：岡崎 エミ（安平町教育委員会事務局 子育て・教育総合専門官）

<第2回プレ研修>日時：1月22日（木）13:00～14:30（オンライン）

テーマ：学校・地域の課題解決を進めるプロジェクトマネジメント

講師：株式会社パイロットプロデューサー／プロジェクトマネージャー 三浦祐子

株式会社パイロットプロジェクトマネージャー 亀岡真由

<全国フォーラム>

日 時：2月24日（火）13時～17時 場所：文部科学省東館3階第一講堂

対 象：高校コーディネーター 教育委員会職員 学校関係者 ほか

挨拶・報告：文科省職員より高校改革の方向性について（産業界との連携）

基調講演：「日本の高校教育のこれから」

登壇者：一般社団法人地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 岩本 悠

パネルディスカッション 「高校コーディネーターのこれから」

コーディネーター、学校、教育委員会、民間企業の立場で高校改革の現状について

高校コーディネーター研修第3回「学びを加速するファシリテーション」

ロールプレイング：コーディネーター・生徒・観察者の三役の立場での伴走および観察、振り返りでファシリテート（伴走）について学ぶ。このロールプレイングは本校において、研修で実施したい内容である。

2 コーディネーション会議報告（木曜1限に定例化 主幹教諭2名、コーディネーター）

- ・地域との関わりについて整理（授業との関係性）
- ・地域連携の取組について振り返り（継続等協議）
- ・今年度探究学習発表会の事前準備・役割分担、来年度の日程検討・ホール予約
- ・2年・3年の探究学習の振り返り
- ・地域探究に関しての振り返り
- ・まち探プロジェクトに関して協議・検討・新規提案・絞り込み等

3 令和8年度に向けた活動方針等

- ・1年生の探究学習に関してのサポート

授業内容、振り返り、教員および生徒の要望で地域資源とつなぐ

- ・まち探プロジェクトに関わり、生徒主体の2・3年時の探究学習の深化につなげる
- ・地域との関わりを参加から生徒主体の参画へ
- ・従来の地域連携（狭山池まつり、公民館、行政等）に加えて、狭山ニュータウン街づくり協議会（さやマルシェ）、市民活動支援センター等と連携して生徒参画を創出
- ・市民活動支援センターの活用
- ・地域資源の発掘（商工会、企業、地場産業・農業など）
- ・探究学習を総合型選抜（特に地方の国公立大学）につなげる（教員・生徒への周知）

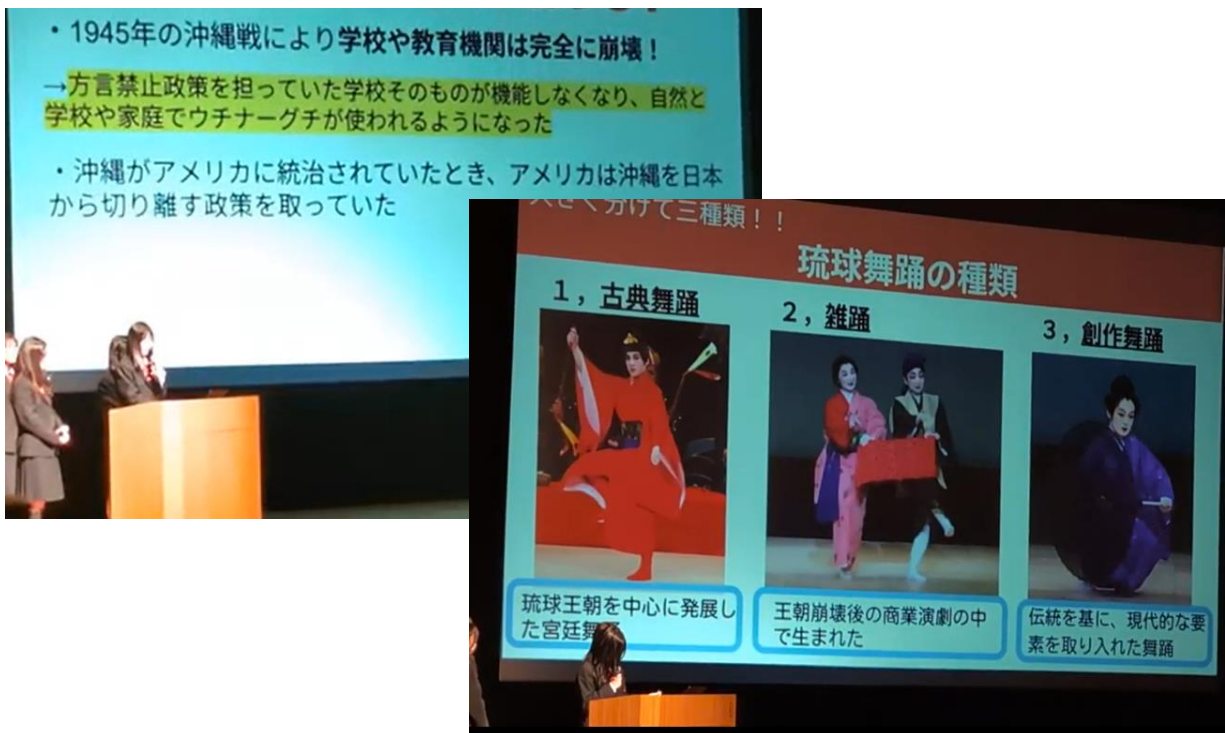
IV 探究学習成果発表会

1 日時・会場

令和7年11月10日（月） 大阪狭山市 SAYAKA ホール 大ホール

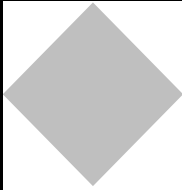
2 内容

- 1 校長による開会挨拶
- 2 大阪狭山市 市長挨拶
- 3 45期2年生による「沖縄探究発表」代表者 成果発表
 - ・ 食文化「広げよう、守ろう、沖縄の食文化」
 - ・ 言語文化「ウチナーグチを喋りたい！！ ～世代を越えて繋がる言葉～」
 - ・ 言語文化「沖縄ウチナーグチ ウチナーグチを知ってますか？」
 - ・ 言語文化「国民と一緒に琉球舞踊を踊りたい！」
 - ・ 自然環境「自然環境と生物多様性」
- 4 運営指導委員会 委員 大阪公立大学 池田教授より講評
- 5 発表会終了後 コンソーシアム会議及び運営指導委員会を大会議室にて開催



3 委員からの総評

- ・ 生徒が修学旅行先として訪れる「沖縄」を多面的に探究するコンセプトは多彩な発表があり良い。
- ・ 修学旅行の後の振り返りで、この探究学習で学んだことがどのようにつながっていくことができるかという点が重要。

 <p style="text-align: center;">地域探究～沖縄～ テーマの「深化」</p>	2 年 組 番
	名前

本時の目標

- ① 各班で調べた内容を基に「発展していく未来」をイメージする
- ② 班員の意見や発想を共有し、整理しながら考えを深めていく

- 1 班で決めたテーマについて、10年後にどうなっていたら“今より良い未来”だと思いますか。班で話し合ってみましょう

班のテーマ〔 (例) 自然環境 言語文化 〕

共有メモ (例)

サンゴが減少せず、繁殖している世界
植物や動物が絶滅しないように生きていける環境

沖縄の言葉が全国でつかわれている

- 2 その未来を実現させるには、どんな工夫や行動が必要でしょうか。

共有メモ (例)

- ・海をキレイに。ゴミ減らす
- ・動物の知識を身に付ける
- ・みんなで育てる
- ・海外からほかの生き物を入れない
- ・沖縄の言葉辞書をつくる
- ・沖縄の言語に興味を持つ・歌を聞かせる

3 「今」より「良い」未来を考えよう① ～「よりよい」って何?～

自分たちの考えた“よりよい未来”の内容は「誰」にとっての“よりよい”なのかを併せて考えて、具体的に未来を実現させる案を考えていこう

【1つめの「今」より「良い」未来】

良くなったと言える状況 [サンゴが減少していない世界]
誰にとって [サンゴ・地球にとって・沖縄の人]

①で出た内容から2つ選び、誰にとってなのか、様々な視点に立って
考えるよう指示

【2つめの「今」より「良い」未来】

良くなったと言える状況 [沖縄の言語が全国的に広まる]
誰にとって [沖縄県民・日本国民]

4 班で考えた“よりよい未来”を疑ってみよう…。

その未来が実現されなかったことで困ることや課題を考えてみよう。

実現できなくてはならない理由を班で具体的にしていこう

【1つ目】

(例) サンゴが減少することで困る生き物がでてくる
沖縄の魅力が減り、観光客が減ってしまう

【2つ目】

(例) 沖縄の言語を理解できる人が減ると文化が消える
築き上げてきた文化を残さないと沖縄の過去の資料などを見たときに
内容を理解できない

5 班で考えた工夫や行動をより現実的な方法で実現させよう

*すぐに実践できる方法

*長期的に継続させる方法

ビーチにゴミ箱を設置する
ゴミを拾うイベントを開催する
今あるサンゴの周りに近づけないようにする

海をキレイにする薬品の開発
サンゴを個人で栽培できるノウハウを学ぶ

6 班のアイデアが実際に活用されていないか調べてみよう

*活用されていたとしたらより広めるためのアイデアを考える

*なかったら、なぜないのかを考える

e スポーツ×ゴミ拾いのイベントが開催されている
→一部の地域でしか行われていないため知名度が低い?
→私たちに興味関心がなかっただけ?

海を守る洗剤が作られている
→価格が高い
→ほかに使いたいものがあり、そっちを優先してしまう

Chromebook で調べ、知らなかったことを学ぶ。正しい情報を取捨選択し、自分たちのアイデアが新しいものなのか、実現可能なものか考えていく。新しいものでないのであれば広める方法や改善点を挙げていくなど様々なアプローチを示す。

7 活動の最後に考えていきたい“よりよい未来”やもっとも進めていきたい

アイデアを班で一つにまとめ、スライドに作りこんでいく。

【班で進めていきたい「よりよい未来」の内容をまとめて、発表したいアイデアを書こう】

(例) 沖縄の自然環境を整え、サンゴや生き物が今以上に過ごしやすい環境づくりのアイデアを考え、「生き物に優しい環境づくりプロジェクト」を、企画したい

1. **沖縄の歴史と文化の変遷**
 - 沖縄の歴史的背景（琉球王国から日本への統治）
 - 沖縄戦の影響と戦後復興
2. **沖縄の伝統文化と現代文化の融合**
 - 沖縄の伝統行事や祭り（エイサー、盆踊りなど）
 - 現代の沖縄音楽やアート（沖縄ポップス、伝統工芸）
3. **沖縄の自然環境と生物多様性**
 - 沖縄特有の動植物（例えば、沖縄の固有種やサンゴ）
 - 自然保護と観光業のバランス
4. **沖縄の観光業の発展と課題**
 - 観光業の歴史と現在（観光地、リゾート業の成長）
 - 持続可能な観光業の実現に向けた取り組み
5. **沖縄の基地問題と社会的影響**
 - 沖縄における米軍基地問題
 - 地元住民と基地の関係、基地問題の解決策
6. **沖縄の教育とその特色**
 - 沖縄の教育制度とその特徴
 - 沖縄の高校生や大学生の進路選択と地域文化
7. **沖縄の食文化**
 - 沖縄料理の特徴とその歴史（ゴーヤチャンプル、沖縄そばなど）
 - 沖縄の食文化が持つ健康的な側面（長寿の秘密）
8. **沖縄の経済と地域活性化**
 - 沖縄の主な産業（観光業、農業、漁業など）
 - 地域経済を活性化するための取り組み（地産地消など）
9. **沖縄の言語（ウチナーグチ）とその保護活動**
 - 沖縄の方言「ウチナーグチ」の歴史と現状
 - 方言の保存活動とその重要性
10. **沖縄のスポーツ文化とその影響**
 - 沖縄の伝統的なスポーツ（空手など）
 - 現代スポーツ（サッカー、バスケットボール）の沖縄での普及と影響

V コンソーシアム会議 議事録

第1回

令和7年5月28日（水） 於・狭山高校

① 会議内容

- ・コンソーシアムの役割について
- ・狭山高校の取組について
- ・普通科改革支援事業について
- ・普通科改革 PT における本年度の実施計画及び進捗状況について

② 主な意見

- ・学校内で完結する探究学習は、プレゼンテーションがゴールとなりがちで、生徒が「何のためにやったのか」という実感を得にくい構造的な課題がある。生徒の活動が実社会と結びつく仕組みを構築することが、この課題を克服する鍵となる。（委員）
- ・市長などから「君たちの提案は目に留まった」という言葉を貰うことで、生徒の達成感や学習意欲は大きく向上すると期待される。（委員）
- ・探究活動をより高度化・実質化させるため、コンソーシアム委員に対し、特にカリキュラム開発への助言とリソースの提供をお願いしたい。（本校教員）

第2回 運営指導委員会と同時開催

第3回

令和8年1月28日（水） 於・狭山高校

① 会議内容

- ・探究学習成果発表会 講評
- ・令和7年度事業報告
- ・令和8年度に向けての協力体制の確認

② 主な意見

- ・探究と教科の連携について、教科の授業の中に、探究という要素が入っていくということではなく、探究の授業は別立てである。（委員）
- ・地域連携と担い手育成について、今までは「お手伝い」と思っていたが、そこから進展させ「担い手」となる生徒がどんどん出てきてほしいということを感じている。（地域 CN）
- ・生徒の提案が実現することの意義について、自分たちの提案したアイデアが実現できる学校となってくれば、文理探究科を今後広報していく一つの実績・特長になると思い取り組んでいる。（本校教員）

VI 運営指導委員会 議事録

第1回

令和7年7月23日（火） 於・狭山高校

① 会議内容

- ・令和6年度の事業報告
- ・令和7年度 of 取組について
- ・普通科改革PTにおける探究プログラムの検討状況について
- ・第1回コンソーシアム運営委員会会議の報告

② 主な意見

- ・コーディネーターやコンソーシアムが、学校からのリクエストに応えるだけでなく、自ら連携プランを提案し、新たな連携先（特に企業や大学）を開拓する役割を担うべき。（委員）
- ・大学側も総合型選抜などで高校との連携を求めており、積極的にアプローチすることが有効。特に、学生募集に課題を持つ学部・学科は協力的な場合が多い。また、学生団体や教職課程の研究室と連携し、高校生の探究活動のメンターとして大学生を派遣してもらい仕組みづくりも検討すべきである。（委員）

第2回

令和7年11月10日（月）

探究成果発表会に於いてコンソーシアム会議と合同開催 SAYAKA ホール会議室

① 会議内容

- ・探究学習成果発表会 講評
- ・新学科の教育課程について
- ・新学科1期生の取組について
- ・先進校視察について

② 主な意見

- ・探究学習において、生徒が一定レベルで満足してしまい、本質的な問いを深める段階に至らないことが課題。（学校教員）
- ・生徒の自発的な好奇心を前提とすることは難しい。まずは多様な体験や情報に「触れさせる」機会を意図的に設ける必要がある。（委員）
- ・教員が探究を強く推進しすぎると、意欲のある生徒は伸びる一方で、そうでない生徒が置き去りにされ、生徒間のスキルや意欲の差が大きくなってしまふ。（委員）
- ・探究テーマを生徒が「自分ごと化」するためには、地域社会との接点が不可欠である。大阪狭山市という身近なフィールドをどう地域素材として活用するかが成功の鍵となる。（委員）

第3回

令和8年2月17日（火） 於・狭山高校

① 会議内容

- ・令和7年度の事業報告
- ・新学科1期生の取組について

② 主な意見

- ・AI で何でも「わかったつもり」、「知っているふり」ができる時代だからこそ、リアルな体験や当事者との出会いの中で、五感を通じて考察することを大事にしたい。（校長）
- ・データづくりから生徒に取り組ませたことで、従来の調べ学習よりも活動が深まった。情報の整理・分析力が身についたという自己評価に繋がっている。（本校教員）
- ・教員自身が探究的な授業を受けた経験が少ない中で、「生徒に教えるのは難しい」と苦手意識を抱きがちである。教員も含めて、在り方や生き方を見ていくことが大切。（委員）
- ・大学入試を変えない限り難しい面もあるが、高大連携で評価の仕組みも含めて考えていくべき。（委員）

Ⅶ 高校魅力化評価システム 結果

昨年度に引き続き、2年生探究学習「大学模擬ゼミ」において、実施前（12月）、実施後（2月）に2回、「高校魅力化評価システム」を活用し、生徒の取組の評価を経年的に分析した。

① 対象生徒 2年生

② 回答時期 「大学模擬ゼミ」実施前（12月）・実施後（2月）

③ 結果と分析

1 総括について

令和6年度

	主体性	協働性	探究性	社会性
①学習活動	46.3%	77.9%	67.6%	38.9%
②学習環境	86.5%	72.7%	80.9%	59.6%
③自己認識	69.7%	82.6%	66.3%	58.4%
④行動実績	69.3%	74.0%	61.8%	36.5%
⑤ウェルビーイング	75.2%	83.6%	71.8%	58.8%

（令和7年 全国平均 %）

主体性 協働性 探究性 社会性

①53.7 76.8 67.5 49.3

②89.0 79.5 84.0 65.8

③70.2 78.8 70.9 64.3

④70.6 73.5 68.1 35.4

⑤65.9 86.0 76.6 61.4

令和7年度

	主体性	協働性	探究性	社会性
①学習活動	57.4%	85.5%	75.1%	48.0%
②学習環境	88.0%	78.0%	83.0%	64.2%
③自己認識	74.3%	83.2%	74.2%	66.6%
④行動実績	73.7%	77.6%	69.4%	47.5%
⑤ウェルビーイング	75.8%	86.9%	79.0%	68.2%

本校の特徴として、生徒の協働性は昨年度に引き続き高い数値となっている。一方で社会性の数値については低い傾向にある。今後、地域との連携方法や生徒へのアプローチの手法等検討する必要がある。

全国平均から比較しても本校の数値は平均より高い値となっているものがほとんどである。

2 強み・伸びしろについて

	強み		伸びしろ	
①学習活動	7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	87.8%	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	31.8%
②学習環境	35.周りの大人は、自分に関わることに自分で決めることを尊重してくれる	89.2%	34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	50.7%
③自己認識	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.9%	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	42.6%
④行動実績	71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	77.0%	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	35.8%
⑤ウェルビーイング	66.この学校に入ってよかったと思う	86.5%	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	48.6%

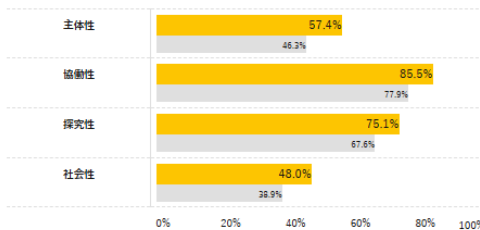
	強み		伸びしろ	
①学習活動	8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	91.6%	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	41.1%
②学習環境	26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	91.2%	34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	52.9%
③自己認識	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	93.3%	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	50.2%
④行動実績	72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	78.5%	69.いま住んでいる地域の行事に参加した	47.5%
⑤ウェルビーイング	66.この学校に入ってよかったと思う	90.2%	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	60.3%

強みについて、学校内での生徒同士の活動については高い評価となっている。前ページに記載している総括にもあるように、生徒が学校外で活動するための方策を検討する必要があることが伸びしろの部分からも読み取れる。令和8年度は「まち探プロジェクト」等、生徒が社会で能動的に活動するための仕掛け作りを推し進める。

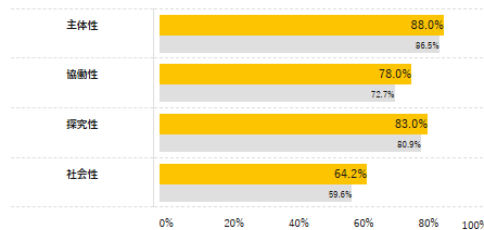
3 昨年度との比較

棒グラフ（黄色）が今年度の全校の結果、棒グラフ（グレー）が前年度の全校の結果を示しています。

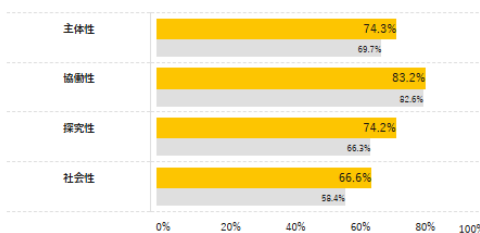
①学習活動



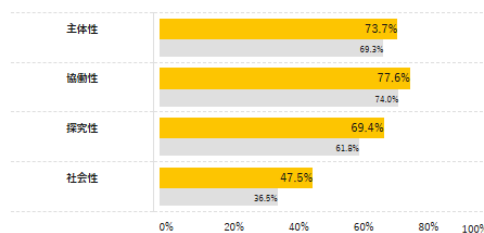
②学習環境



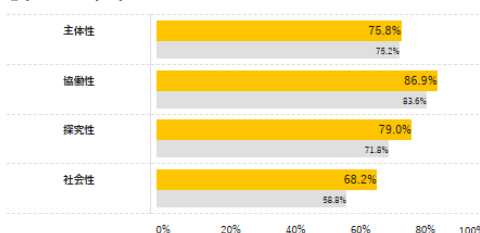
③自己認識



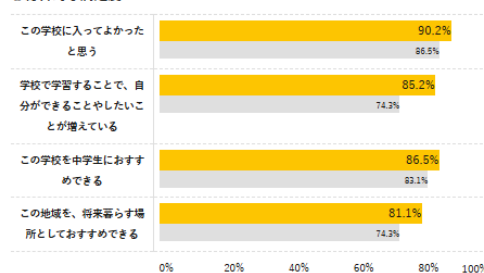
④行動実績



⑤ウェルビーイング



⑥総合的な満足度



昨年度と比較し、すべての数値が上昇している。学校全体の取組として探究学習に対する評価を肯定的に受け取ってもらえていると考える。特に前年度から継続して実施している「大学ジャンボリー」「大学模擬ゼミ」等、将来の進路と関連付けたプログラムに一定の評価を得ていると考える。

新学科に向けてカリキュラムの策定と実践に向けた組織体制の強化に努めたい。

VIII 事業完了報告書

1. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

事業項目	実施日程（令和7年4月1日～令和8年3月31日）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カリキュラムや教育方法等の検討・開発・実施												
普通科改革 PT 会議	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
先行実施授業		●	●	●			●	●	●	●	●	
先進校視察			●	●		●	●	●			●	
校内教員研修会		●		●			●		●			
関係機関との連携協力体制の構築・維持												
運営指導委員会				●				●			●	
コンソーシアム委員会		●						●		●		
コーディネーター												
地域連携コーディネーター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新学科設置に向けた説明会等の実施												
PTA 総会（保護者向け）		●										
学校 HP での情報発信				●	●				●			
学校説明会（校内・外部会場）				●	●		●	●	●		●	
成果発表・成果普及												
成果発表会								●				
他府県等の視察受入れ							●	●		●		
報告書の作成												●
学校 HP での情報発信												●
成果検証												
学校教育自己診断										●		
高校魅力化アンケート										●		●

(2) 事業の実績の説明

① カリキュラムの検討内容

■普通科改革推進 PT 会議

・実施概要（今年度の取組）

- 1、新学科における1年次プログラムの策定
- 2、新学科実施予定授業の先行実施と振り返り
- 3、探究活動成果発表会の企画・運営
- 4、新学科における「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」及び「将来構想マップ（案）」に基づいた、3学年間を見通したカリキュラム計画の検討・作成
- 5、探究に係る教職員向け研修の実施
- 6、その他、事業に関する事項についての検討

・構成員

校長・教頭・首席（主幹教諭）・普通科改革推進 PT 長・委嘱教員

・会議日程及び内容

毎週金曜日に開催し、以下の内容について企画・運営・検討を行った。

- 新学科の広報活動について
- 新学科1期生が実践する学校設定教科【深学探究】「探究Ⅰ」の学習計画について
- カリキュラムにおける評価について
- 探究成果発表会企画運営
- 先進校視察の検討
- 本校への視察を希望する学校の受け入れ対応

・主な会議内容

月	内 容
4月	・教員研修計画（全4回）の策定 ・先進校視察計画の策定
5月	・学校ホームページ及びパンフレットのリニューアルについて ・第1回教員研修の運営
6月	・探究成果発表会の内容の検討 ・学校ホームページにおける文理探究科特設ページの作成
7月	・新学科カリキュラムの決定と教員への周知 ・第2回教員研修の運営
8月	・探究成果発表会の準備 ・学校パンフレット及びチラシの作成
9月	・探究成果発表会に係る学年の教員への指導 ・学校設定教科・科目の内容検討

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察の報告 ・第3回教員研修の運営 ・他府県からの視察受け入れに係る調整・対応
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察の報告 ・探究成果発表会の運営 ・学校ホームページにおける文理探究科説明動画の作成
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回教員研修の運営 ・学校設定教科・科目の評価についての検討
1月	・学校設定教科・科目についての教員への説明
2月	・新学科1期生の授業運営準備
3月	・新学科1期生の授業運営準備

■先行実施授業

・実施概要（今年度の取組）

① 「地域課題探究」（3年）…新学科では2年次実施予定

大阪狭山市が抱える課題について高校生の視点から「問立て」を行い、解決方法について行政担当者に提案することを目的とする。今回は大阪狭山市が進める公民館を含めた公共施設の建替え、複合化計画について、利用者の目線で新たな複合施設や広場のめざすイメージやコンセプトを考え、提案するという課題に取り組んだ。生徒は、考えたテーマが似通ったもの同士で少人数のグループを作って情報の収集・分析を行い、考えをまとめ、校内でプレゼンを実施し、最終的には課題の解決方法について大阪狭山市に提案を行った。

自治体からは生徒が提案するアイデアについて、高い評価をいただいた。また、生徒からは、市の課題について基礎的な知識が無く、背景を十分に理解しないまま探究活動を始めたため、苦勞したという意見が多かった。次年度は、課題を解決するための方策等の提案に向けて、自治体と意見交換し課題の背景等に関する理解を深めながら、取組を進めたい。

② 「ビブリオバトル」（2年）…新学科では1年次実施予定

生徒の自己表現能力及びプレゼンテーション能力の育成を目的とする。自身が感銘を受けた書籍について、クラスで口頭発表を行い、生徒同士による相互評価を行い、クラス代表を決定。最後は学年全体の発表会を行い、学年のビブリオチャンピオンを決定した。

③ 「深学探究基礎講座 大学魅力発見探究」（1年）…新学科では1年次実施予定

生徒の社会課題の発見や、自己と社会のつながりの発見・調査を目的とする。大学オープンキャンパスに生徒が参加し、授業内容、施設整備など、大学の特色や魅力についてレポートにまとめ、その後同じ大学を調べた生徒でグループを組み、各大学の魅力を検討する取組を実施した。検討した結果をスライドにまとめて学年発表を行い、生徒同士で相互評価を行った。

I C T機器を活用したデータの収集及び分析等の活動について、生徒は、教員の想定以上に積極的に取り組んでおり、成果が見られた。

- ④ 「地域課題探究（沖縄について）（2年）…課題内容を精査し新学科では2年次実施検討
 修学旅行で訪れる沖縄について、多面的に調査し、自然文化や歴史、風土等について「問
 立て」を行うとともに、調査結果から見えてくる課題や高校生独自の視点を見出すことを
 目的とした。11月に開催した探究学習発表会において代表者が発表し、運営指導委員会委
 員・コンソーシアム委員から講評や問いを深めるためのアドバイスをいただいた。また、
 修学旅行で沖縄を訪問した際には、現地で事前に調査した内容との比較検討を行った。
 事前に探究学習をした内容について、実際に現地に赴き、ファームステイ等で地元の人
 々から直接話を聞くことで、生徒が自身の探究学習を振り返ることができ、より深い学び
 に繋がった。

- ⑤ 「JICA 関西交流」（3年）…新学科では1年次実施予定
 海外の国々の文化と日本文化との違いを比較することを通じて社会性（グローバル意識）
 を育成することを目的とする。JICA 関西で活動する活動員から海外での生活や文化を紹介
 いただき、日本と比較して考察を行い、スライドにまとめて発表を行った。

- ⑥ 「深学探究基礎講座・大学模擬ゼミ」（2年）…現在実施学年等検討中
 学問分野ごとに大学教員を招聘し、生徒が将来学びたいと考えている学問に分かれてグ
 ループを編成し、ゼミ形式で実施。大学教員による講義をもとに、生徒はその学問をなぜ学
 ぶのかについて探究学習を行った。その成果をスライドにまとめて発表し、生徒同士で相互
 評価を行った。また、大学教員から評価及び指導助言をいただき、生徒へのフィードバック
 をした。

- ⑦ 「狭山池まつり 探究活動」（3年）…現在実施学年等検討中
 「総合的な探究の時間」の科目別選択科目において実施。地域のイベント「狭山池まつ
 り」の集客状況や会場の利点・改善点について、一人一台端末を活用しデータ収集・分析
 を行ったうえで、次年度の開催に向けて「狭山池まつり」の運営団体への提言をまとめる
 授業を行った。
 実際に「狭山池まつり」に参加し、情報を収集して分析していく探究のプロセスを体験
 することで、生徒からは肯定的な評価を得た。次年度は、更に「狭山池まつり」の運営に
 参画し、探究的な学びを充実していくことができるよう、授業内容の検討を進める。

・授業実績

日程	取組	内容
6月	地域課題解決探究	大阪狭山市と連携した地域課題を解決する活動
	「狭山池まつり」探究	「狭山池まつり」を題材とした課題解決型探究授 業の実施
9月	ビブリオバトル	代表者による書評のプレゼンコンテスト
8～12月	大学魅力発見探究	オープンキャンパスの報告をポスター形式で発表

11月	沖縄探究	修学旅行と関連付けて、地域社会の課題を考える
12月	JICA 関西交流	外国の生活文化を学び、日本文化と比較する
12～2月	大学模擬ゼミ	大学教員の指導による課題探究活動

■先進校視察

・視察日程及び内容

日程	視察校	内容
6月11日(水)	兵庫県立柏原高等学校	普通科改革事業の運営に関する情報の共有
7月2日(水)	福岡県立八幡高等学校	夢現プロジェクト授業の見学及び情報共有
7月3日(木)	広島市立美鈴が丘高等学校	「グローバル探究科」の授業をはじめとした先進的取組の見学
10月3日(金)	浜松学芸高等学校	探究創造科 授業視察及び情報交換
11月14日(金)	京都市立開建高等学校	「ルミノバージョン科」の授業をはじめとした先進的取組の見学

■フィールドワーク

- ・日 程 7月 : 担当教員、カリキュラム構築指導アドバイザーとの打ち合わせ
9月 : 授業実施案策定
10月 : 2年「地理総合」の授業にて実施
(事前授業・フィールド散策・振り返り)
- ・講 師 丸山 賢 (元大阪府教員)
- ・実施内容 フィールドワークを通じて、大阪狭山市についての歴史、文化、自然等の知見を広げ、地域を多面的・多角的に考察できることを目的とする。地名の由来や地理的な要因を学ぶ事前学習を踏まえ、カリキュラム構築指導アドバイザーと協力して狭山高校周辺の特徴ある土地や史跡、施設をめぐり、地名の由来や歴史的な意味を学ぶ取組を実施した。

<成果と課題及び次年度の展望>

新学科における探究学習プログラムの実施に向け、2年生での「ビブリオバトル」や「沖縄探究」において、自己やグループの考えをまとめて発表するとともに、生徒同士で相互に評価し合うことで、プレゼンテーション能力や課題発見力の育成を図ることができた。

一方で、探究活動を学年全体で指導していくための準備及び教員への指導方法の共有に時間を要したことや、評価について、「取組を通じて育成をめざした生徒の資質・能力」をどのような指標で、いつ、どのような場面で、どのような頻度で把握するかが課題である。

次年度は、生徒向けアンケートをはじめ、ループブックを活用するなど、取組の実施による生徒の変容を測るための評価方法について更に研究を進める。また、生徒が更に問いを深めるための「問立て」の仕掛けを研究し、生徒が能動的に活動する学習カリキュラムの開発をめざす。

■本事業に関する視察等受入れ

今年度、次の視察、国内留学の受入れ等を行った。

- ・10月27日（月）北九州市立高等学校より4名の生徒を国内留学生として受入れ
- ・11月19日（水）熊本県立高森高等学校より教員2名が視察のため来校
- ・12月15日（月）岐阜県立大垣西高等学校より教員2名が視察のため来校
- ・1月29日（木）大阪府立佐野高等学校より教員2名が視察のため来校

② 管理機関による事業の実施体制や管理方法

(1) 運営指導委員会の設置

今年度は、運営指導委員会会議を3回開催し、本事業における外部機関との連携協力体制の構築や、先行実施授業の内容、新学科で新たに設置する学校設定科目及び総合的な探究の時間で実施を予定している探究プログラム等について報告し、各委員の専門的知見から、指導助言をいただいた。

[運営指導委員会の体制]

氏名	所属
池田 文人	大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授
柴 浩司	近畿大学 教授
岩井 晃子	大阪大谷大学 教育学部 教職教育センター長
牧野 篤	東京大学 名誉教授、大正大学 教授
福田 準一	大阪狭山市公民館 館長
トラン ティ 美佳	大阪府国際交流財団 国際協力推進員

[日程・内容]

日程	出席者	内容
令和7年7月23日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・池田 文人 ・岩井 晃子 ・牧野 篤 ・福田 準一 ・トラン ティ 美佳 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の事業報告 ・令和7年度の取組について ・普通科改革 PT における探究プログラムの検討状況について ・第1回コンソーシアム運営委員会会議の報告
令和7年11月10日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・池田 文人 ・岩井 晃子 ・福田 準一 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習成果発表会 講評 ・新学科の教育課程について ・新学科1期生の取組について ・先進校視察について
令和8年2月17日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・池田 文人 ・牧野 篤 ・福田 準一 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の事業報告 ・新学科1期生の取組について

[主な指導助言]

- ・単なる生徒の興味・関心、好奇心に基づき、探究課題を設定していくことは難しい。「なぜ」という問い立ての部分の深め、課題の解決やその先の提案に持っていくための自分ごとにしていくプロセスが欠けている。
- ・探究を進めていく上では、体験的な活動と知識的な習得を、両輪で進めていくことが重要。
- ・地域との連携した取組において、市の教育委員会と連携し、小中高と縦のつながりをもって、取組を進めていくことができている。地域の魅力化と高校の魅力化は、併せて考えていくことが大事。
- ・他府県の先行事例においても、充実した探究学習には探究と他の教科との関連が見られる。探究によって生徒の目が地域や社会に開かれていく姿が見られる。その場面において、教科における学びを活かされるような探究と紐付けた授業づくりや工夫が重要。
- ・生徒の体験的な活動や発表等の表現活動は充実しているが、探究の手法等、探究的な学びに向けた準備や指導の場面が見られない。

(2) 担当者会議の運営

今年度は、担当者会議を年間2回開催した。第1回については、府教育庁と狭山高校、春日丘高校（令和8年度より学際領域に関する学科に改編予定）の3者で実施し、会議では、狭山高校から、本事業における先行実施授業等の取組の成果と課題等について報告を行うとともに、新たな学科でのカリキュラムの構築に向け、外部機関との連携や校内体制の整備等について両校で情報交換を行った。第2回については、狭山高校、春日丘高校の2校に加え、大阪府において先進的に探究学習に取り組む府立生野高校も参加し、探究学習における基礎的な手法等について情報共有を行った。

また、府立天王寺高校において開催した、新たな普通科に改編を予定している学校や先進的に探究学習に取り組む学校等が参加する探究学習に係る研修会において、普通科における探究学習の充実をめざした取組について狭山高校が発表し、コンソーシアム機関等の地域と連携した取組や外部連携に係る組織体制等を紹介するなど、新たな普通科のモデル校としての役割を務めた。

[日程・内容]

日程	出席者	内容
第1回： 令和7年7月10日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・府立狭山高校 2名 ・府立春日丘高校 2名 ・府教育庁 2名 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 総合的な探究の時間及び新学科において新たに開設する学校設定教科・科目について (2) 今年度の取組について (3) 次年度に向けた広報等について (4) その他・情報共有等
第2回： 令和7年12月22日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・府立狭山高校 2名 ・府立春日丘高校 2名 ・府立生野高校 2名 ・府教育庁 2名 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 総合的な探究の時間及び新学科において新たに開設する学校設定教科・科目について (2) 新学科において実施予定の取組について

		(3) 探究学習の進め方及び教材等について (4) その他・情報共有等
--	--	--

(3) 定期的な訪問

本事業の実施に係る管理・指導・支援については、府教育庁の担当者が、狭山高校に月1回程度の訪問又はオンライン会議を実施することにより、事業の進捗状況の確認や取組を進める上での諸課題の解決に向けた協議等を行うとともに、新学科に向けた先行実施授業等を視察し、授業担当者等に指導・助言を行った。

<今年度の成果>

- ・昨年度の振り返りを踏まえ、今年度は、運営指導委員に先行実施授業や探究学習の成果発表会に出席いただき、直接生徒の学習活動を視察いただく機会を設けた。生徒が作成したポスターやオーラル発表等、生徒の学習活動から探究学習を進める上で必要となる基礎的な手法の習得の必要性や、教員の適切な指導等について、各委員の専門的な知見から評価をいただき、指導・助言をいただくことができた。
- ・担当者会議については、第2回において、狭山高校・春日丘高校の2校に加え、先進的に探究学習に取り組んでいる府立生野高校から探究担当者を招いて実施した。探究学習における基礎的な手法等について情報共有するとともに、狭山高校が新学科において実施を予定している外部機関との連携による探究的な取組について紹介し、普通科における探究学習の充実をめざす取組等について協議を行うなど、役割を果たした。

③ 高等学校における事業の実施体制や管理方法について

I 校内組織体制

- ・昨年度より設置している本事業の取組の企画・実践・検証を担う普通科改革推進プロジェクトチームにおいて、原則毎週1回、定例の会議を実施した。
- ・新学科におけるスクールミッションや育成すべき資質・能力、学校運営体制をビジュアル資料として示す「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（令和6年度作成）」を基本として事業の理念やめざすべき方向性について校内で共有し、カリキュラムの策定評価の設定を推進した。
- ・新学科における探究活動の在り方や指導方法等に関する教員対象の研修を全4回実施した。

II コンソーシアム運営委員会の開催

- ・コンソーシアム運営委員会会議を以下の日程で3回開催した。

第1回 令和7年7月23日（水）

第2回 令和7年11月10日（月）

第3回 令和8年1月27日（火）

- ※ コンソーシアム運営委員会の出席者及び内容については、⑤コンソーシアムの体制及び取組に記載

- ・コンソーシアム運営委員会では、探究活動で活用できるリソース（施設・人材等）の情報交換や次年度文理探究科で実施する探究活動に対する助言に加え、コンソーシアム機関と協働した今年度の取組に関する報告及び次年度の取組等について、打ち合わせを行った。

Ⅲ 学校運営協議会

- ・学校運営協議会を以下の日程で3回開催した。

日程	内容
令和7年7月23日（水）	・事業の進捗状況の報告と意見の共有
令和7年12月5日（月）	・探究成果発表会について報告
令和8年2月13日（金）	・文理探究科1期生の受け入れにあたって意見の共有

- ・学校運営協議会では、学校教育自己診断等の分析に関する報告及び今後の取組改善に関する助言を受けるとともに、新たな学科における取組について報告した。

<成果と課題及び次年度の展望>

本年度は、普通科改革推進プロジェクトチーム会議を定例で実施した。

また、昨年度策定した「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン」をコンソーシアム会議に提示し、本事業を通じて育成をめざす資質・能力と取組の関連に対する協力体制を推進することを共有することができた。本年度の課題として、学校運営協議会において、新学科のめざす方向性等について、説明が尽くされたとは言い難く、先行実施の授業等の説明を丁寧に行うことも必要であったと考える。次年度は、文理探究科における授業や取組等を見学いただく機会を設け、めざす生徒像の育成に向けた探究的な学びについて意見をいただき、より良いカリキュラムとなるよう反映させていく。

④ 運営指導委員会の体制および取組

- ・運営指導委員会については、以下の体制で、運営指導委員会会議を3回実施した。

[運営指導委員会の体制] <再掲>

氏名	所属
池田 文人	大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授
柴 浩司	近畿大学 教授
岩井 晃子	大阪大谷大学 教育学部 教職教育センター長
牧野 篤	東京大学 名誉教授、大正大学 教授
福田 準一	大阪狭山市公民館 館長
トラン ティ 美佳	大阪府国際交流財団 国際協力推進員

[運営指導委員会の取組] <再掲>

日程	出席者	内容
令和7年7月23日(火)	池田 文人 岩井 晃子 牧野 篤 福田 準一 トラン ティ 美佳	・令和6年度の事業報告 ・令和7年度の取組について ・普通科改革 PT における探究プログラムの検討状況について ・第1回コンソーシアム運営委員会会議の報告
令和7年11月10日(月)	池田 文人 岩井 晃子 福田 準一	・探究学習成果発表会 講評 ・新学科の教育課程について ・新学科1期生の取組について ・先進校視察について
令和8年2月17日(火)	池田 文人 牧野 篤 福田 準一	・令和7年度の事業報告 ・新学科1期生の取組について

<成果と課題及び次年度の展望>

今年度は、狭山高校として育成をめざす生徒像及び身に付けさせたい資質・能力等とともに、令和8年度に入学する文理探究科1期生のカリキュラム及び新たに開設する学校設定科目「探究Ⅰ」の年間活動計画について、指導・助言をいただいた。

カリキュラムや評価等について学識である委員から、教員を対象とした研修を実施し、助言をいただく機会を設けるなど、新学科のカリキュラムや探究的な学びの方向性について、理解を深めることができた。

一方で、新学科の校内の運営体制について議論を十分に深めることができなかつたことが課題として挙げられる。令和7年度末の本事業終了に伴い、次年度は、運営指導委員会が担ってきた一部の機能をコンソーシアム会議に引き継ぎ、来年度先行実施する新学科2・3年次の取組や探究活動に係るアンケートやルーブリック等の評価方法の研究開発に向けて、指導・助言をいただくとともに、校内の運営体制等についても助言いただく。

⑤ コンソーシアムの体制および取組

- ・コンソーシアムについては、以下の体制で、コンソーシアム運営委員会会議を3回実施した。

[コンソーシアムの体制]

大阪公立大学、近畿大学、大阪狭山市、大阪狭山市教育委員会、大阪狭山市商工会、一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォーム、一般社団法人ナレッジキャピタル、株式会社三菱総合研究所

[コンソーシアムの取組]

日程	出席者（所属）	内容
令和7年5月28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・西田 正宏（大阪公立大学） ・古川 照人（大阪狭山市） ・中本 真司（大阪狭山市教育委員会） ・中嶋 芳彦（大阪狭山市商工会） ・稗方 直己（一般社団法人ナレッジキャピタル） ・奥野 翔子（三菱総合研究所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムの役割について ・狭山高校の取組について ・普通科改革支援事業について ・普通科改革PTにおける本年度の実施計画及び進捗状況について
令和7年11月10日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・古川 照人（大阪狭山市） ・牛田 雅之（大阪狭山市教育委員会） ・中嶋 芳彦（大阪狭山市商工会） ・稗方 直己（一般社団法人ナレッジキャピタル） ・奥野 翔子（三菱総合研究所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習成果発表会 講評 ・新学科の教育課程について ・新学科1期生の取組について ・先進校視察について
令和8年1月28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・寺下 憲志（大阪狭山市教育委員会） ・中嶋 芳彦（大阪狭山市商工会） ・稗方 直己（一般社団法人ナレッジキャピタル） 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習成果発表会 講評 ・令和7年度事業報告 ・令和8年度に向けての協力体制の確認

<成果と課題及び次年度の展望>

昨年度策定した「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン」及び「将来構想マップ」について、忌憚らない意見や助言をいただき、地域の自治体や企業等との連携の可能性について、方向性を固めることができました。

課題としては、今年度実施した探究プログラムや授業において、コンソーシアム機関の企業等との連携が十分にできなかったことが挙げられる。

次年度は、自治体以外の企業等のコンソーシアム機関とも連携した取組を実施する機会を設け、コンソーシアム参加機関がもつ豊かな資源やネットワークを生かした持続可能な探究プログラムの確立を図る。

⑥ コーディネーターの配置および活動内容

■勤務形態及び配置

- ・ 週2回、1日6時間勤務の非常勤職員として雇用した。
- ・ 普通科改革推進プロジェクトチーム及びグローバルハイスクール推進委員会の一員として配置。

■活動内容

- ・ 大阪狭山市及び外郭団体「狭山池まつり実行委員会」における活動の企画連絡調整。
- ・ 大阪狭山市各諸団体とのボランティア活動の企画連絡調整。
- ・ 普通科改革コーディネーターとして文部科学省主催の研修に参加。

■活動実績

月	勤務実績	主な取組事項
4月	47時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整
5月	52時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ 運営指導委員会出席
6月	42時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ コンソーシアム会議出席
7月	63時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ 探究活動成果発表会に向けての連絡調整
8月	48時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ コーディネーター研修出席（オンライン）
9月	48時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整
10月	48時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ 探究活動成果発表会に向けての連絡調整
11月	36時間	・ 大阪狭山市との連携した取組実施に係る連絡調整 ・ 探究活動成果発表会に向けての連絡調整 ・ 探究成果発表会運営
12月	42時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整
1月	36時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ コンソーシアム会議出席
2月	52時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ 高校コーディネーター研修、全国フォーラム参加 ・ 報告書作成業務
3月	62時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整

<成果と課題及び次年度の展望>

コーディネーターとして、主として大阪狭山市や地域諸機関との連絡調整を行い、多様な交流の機会を実現することができた。特に本年度は地域資源の掘り起こしやリサーチ等、探究活動を実践する風土作りに大きな成果をあげた。

次年度は、探究学習の企画・立案等を担うコーディネーター会議に参加し、企画調整を行うとともに、「総合的な探究の時間」等の授業への入り込みや教員との連絡・調整等、コーディネーターが参画できる校内の体制づくりに努める。

⑦ 新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明の実施状況

■管理機関

- ・中学校の教員及び中学生に向けた広報チラシの作成。
- ・市町村教育委員会向け説明資料を作成し、過去5年間に、狭山高校に入学実績のある市町の教育委員会10か所を訪問し、進路指導の担当者に対して、新学科について説明。
- ・中学校校長会において、新学科について説明。

■狭山高校

○中学生及び地域の方への説明

- ・学校パンフレット及び学校ホームページを全面改修。
- ・学校ホームページにおいて、6月に新学科「文理探究科」に関する特設ページを作成。
- ・11月に新学科における探究的な学びやカリキュラム等についての説明動画を作成し、学校ホームページにも掲載。
- ・本校主催の学校説明会（10月、11月、12月、2月）において説明を実施。
- ・以下の外部説明会に参加し説明を実施。
大阪府教育庁主催の学校説明会（7月）、堺市近隣地区主催学校説明会（8月）、教育関連企業主催学校説明会（9月）

<成果と課題及び次年度の展望>

自治体主催の学校説明会においては、昨年度以上の来訪者があり、本校の取組について広く周知することができた。一方で、新学科において実際にどのような学びを行っていくのかという点に関する質問も多くあったため、次年度以降も引き続き、新学科の理念や具体的な取組内容について丁寧に説明し、周知を進めていく。

⑧ 管理機関における事業全体の成果検証、評価

今年度は、本事業に係る成果検証・評価について、以下の通り実施した。

- ① コンソーシアム運営会議（第1回：5月、第2回：11月、第3回：1月）
 - ② 運営指導委員会会議（第2回：11月、第3回：2月）
 - ③ 担当者会議（第1回：7月、第2回：12月）
- ・①においては、狭山高校とコンソーシアムを構成する外部機関と連携した探究活動の実施について意見交換をするとともに、今年度は本事業においてコンソーシアム機関と連携した先行授業を実施し、それに対して指導・助言をいただくなど、本事業でのカリキュラム開発及び指定終了後の継続した取組実施という観点から、有効的に本会議を活用できることが見込まれ、評価できる。
 - ・②においては、新学科における3年間の探究学習プログラムをまとめた計画（案）や、新学科1期生の探究活動を示した単元計画等の新学科における教育活動の概要に対して、本事業での方向性や取組との整合性等について、運営指導委員それぞれの専門的知見から指導・助言をいただけたことは、評価できる。

- ・③においては、本事業における取組や学科改編に向けた取組の進捗状況、各校における探究学習及び外部連携等の報告や情報交換を通じて、育成をめざす資質・能力に基づいた評価規準を設定していくことの重要性、生徒が探究学習を進めていく上で必要な教員の指導や働きかけ等について、担当者間で議論・検討できたことは、評価できる。

<今年度の成果>

今年度は、コンソーシアム機関と連携して実施した取組や、新学科に向けて先行実施した取組について、コンソーシアム運営委員や運営指導委員に視察いただく機会を設け、取組の成果と課題、今後の改善点等について、指導・助言をいただくことができた。

⑨ 管理機関による支援体制

(1) 予算的支援

新学科の運営に係る継続的な予算として、約 610 万円を確保することができた。次年度以降、以下のとおり、運用していく予定。

- ・コーディネーターの配置
- ・コンソーシアム機関との運営会議の実施
- ・外部講師を活用した研修や講演等の実施
- ・課題研究の成果発表会の実施
- ・探究学習に係る外部コンテストや発表会等への参加実施
- ・グループワーク、プレゼンテーション等の発表活動に係る消耗品の調達 他

(2) 人的支援

次年度から、新学科において実施するカリキュラムの研究開発及び実施体制の構築等により、学科改編に向けた取組を推進することを目的として、府独自の予算により、今年度は、昨年度の加配措置から 1 名加えた計 2 名の教員の加配措置を講じた。

次年度も府の予算により、継続して 2 名の加配措置を講じる予定。

(3) 探究活動に係る意見交換会の実施

運営指導委員からの指導・助言等を踏まえ、探究学習を進めていく上で必要となる基礎的な手法やその指導方法等について意見交換会を開催した。

会には、狭山高校で次年度新学科の探究を担当する担任団 7 名及び首席 2 名に加え、府立高校において先進的に探究学習を進めている府立高津高校、府立三国丘高校の 2 校から探究の主導者を招き、取組の実践事例の紹介や探究学習において活用している自校の教材、教員の指導体制等について、意見交換をした。

⑩ 成果普及のための取組

- ・本事業の成果については、以下の通り、府立高校、他県の高校、地域の中学校及び地域の方々に対しても積極的に情報発信・交換を行うことにより、成果を普及した。
- ・本校ホームページにおいて、新学科のカリキュラムの詳細、先行実施授業の様子、大阪狭山市や地元公民館と連携した取組等を随時、情報発信した。

- ・探究活動成果発表会を大阪狭山市文化会館「SAYAKA（さやか）ホール」で11月10日（月）に実施し、府内はもとより、地域や他府県にも公開・周知し、成果の普及に努めた。
- ・他府県の普通科改革支援事業を实践する先進校に近隣の府立高等学校（普通科）の探究担当者とともに視察を行い、外部機関と連携した探究活動や組織体制の在り方等について研究した。
- ・本事業の取組及び各取組における評価、成果をまとめた研究報告書を作成し、府立高校に配付し取組を普及した。（予定）
- ・府立天王寺高等学校が開催した探究学習についての研修会に参加し、現在の本校の取組の発表と将来の展望についての意見交換をした。

<成果と課題>

今年度は、探究成果発表会の開催や視察の受け入れ、学校ホームページによる探究活動の情報発信、研究報告の作成等を通じて、他校に対して、成果の普及に努めた。

⑪ 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

（1）本事業の継続的連携をおこなう組織体制の構築等

昨年度、本事業の開始にあたり、コンソーシアムの構築ができていた。

また、本事業の活用により配置しているコーディネーターについて、今年度、業務や役割を精査し、コンソーシアム機関をはじめとする外部機関との連携にあたっては、特に地域連携における連絡・調整の中心的な役割を果たすとともに、校内では普通科改革プロジェクトチームの一員として教員と連携しながら、探究学習を推進する体制が構築できた。

加えて、⑨に記載したとおり、今年度、府独自の予算により、新学科の運営に係る継続的な予算を確保するとともに、教員2名の加配措置を講じた。次年度も、カリキュラムの研究開発や実施体制の構築等を目的に、教員2名の加配措置を講じる予定。コンソーシアム体制や加配教員を有効活用して、引き続き取組継続に努める。

（2）指定終了後の取組継続について

令和7年11月に開催した教育委員会会議で決定した、2040年を展望したこれからの大阪の教育の質の向上に向けた府立高校改革に係る当面の具体策を取りまとめた「府立高校改革アクションプラン」において、外部機関と連携した実践的な文理融合型の学び等、自ら未来を切り拓く力を育てる教育を推進する学校として狭山高校を位置づけ、令和8年度から新たな学科「文理探究科」に改編することにより、次年度以降も取組を継続していく。

⑫ 他の事業との関係

大阪府の事業である大阪府立学校リーディングGIGAハイスクール事業（令和5年度～令和7年度）及び文部科学省の高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）（令和6年度～）と連携し、ICT機器環境を活用する探究学習の実践に取り組んでいる。

普通教室に無線環境と単焦点プロジェクターを設置し、生徒の1人1台端末を無線で接続し、端末による発表や討議を可能とした。また、会議室及び視聴覚教室等を改装し、探究討議や発表を学年単位で実施可能とする環境を整備するなど、本事業の推進に努めている。

令和6年度 文部科学省指定事業
「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」
実施報告書
—第2年次—
発行日 令和8年3月31日
発行者 大阪府立狭山高等学校
〒589-0011 大阪府大阪狭山市半田4丁目1510番地
TEL 072-366-8400 FAX 072-367-6256
HP <https://www.osaka-c.ed.jp/sayama/>

